

アルファベット

1. 4線

英語のノートには、英語に慣れていない方が練習しやすいように4本の線が引いてあります。

アルファベットの形をバランス良く覚えるために、最初は、少しもはみ出さないように、きっちりと書くことが大切です。

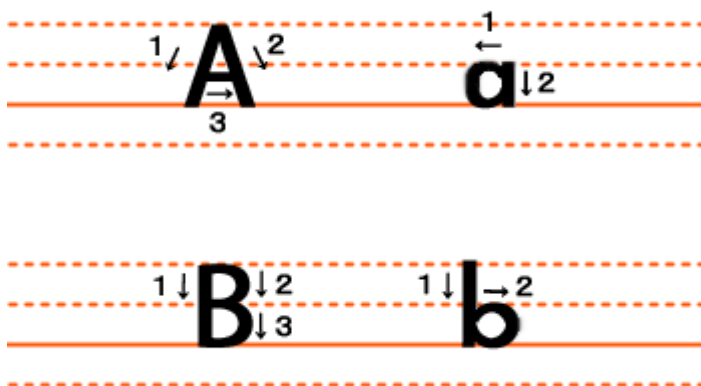
中学校の最初の定期テストでは、はみ出し部分が細かくチェックされるので、特に注意して下さい。

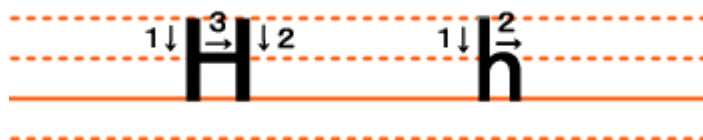
2. アルファベット

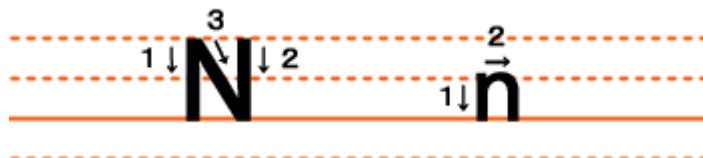
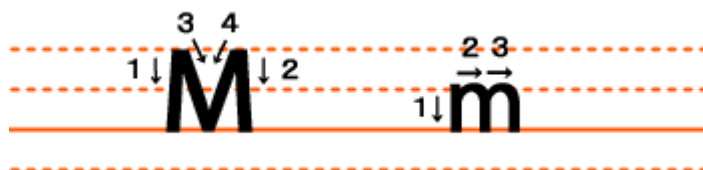
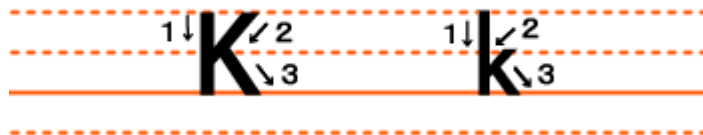
アルファベットには大文字と小文字があり、それぞれ全部で26あり、合計で52のアルファベットを覚える必要があります。

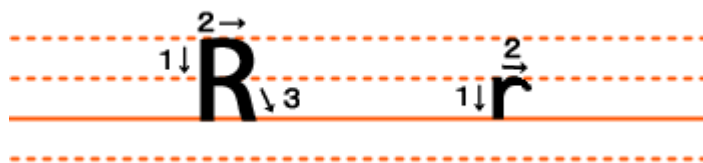
それぞれ間違えやすい部分があるので、しっかりと学習して下さい。

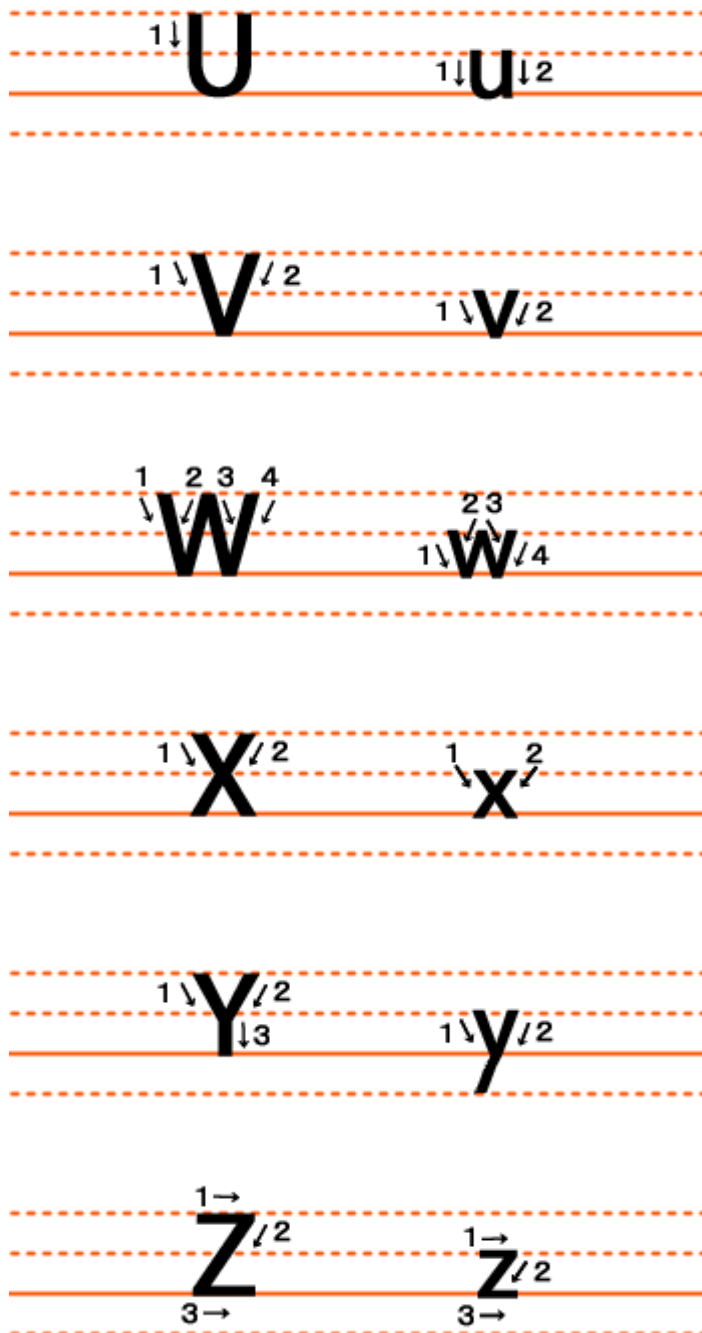
※決まった筆順はありませんが、参考までに載せています。もし定期テストで出題される場合は、授業で習った筆順に従って解答するようにして下さい。











3. 定期テスト対策のアルファベット

中学校の一番最初の定期テスト（１学期の中間テスト等）では、単語の他にアルファベット自体が出題されます。しかし、出題されるパターンはある程度決まっているので、ここでしっかりと学習して下さい。

1. L M N の語順

これは必ずといっていいほど出題されます。もちろん、26字の語順をすべて覚えることが大前提ですが、特に L M N の語順には注意して下さい。

2. b と d の区別

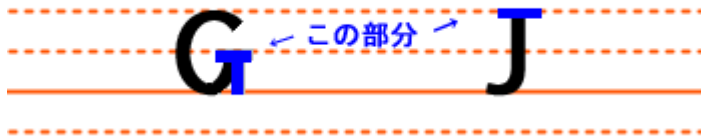
b と d を間違っって使う人がかなりいます。よくある間違いは、dog（犬）を bog（沼）にしてしまう間違いです。

3. p と q の区別

向きが反対なだけの、似たようなアルファベットなので、間違う人をよく見ます。アルファベットの q（キュー）は数字の 9（キュウ）と同じ向きであると覚えて下さい。

4. G と J について

たまに受ける質問ですが、「次のように G や J を書いてはいけないのか？」というものがあります。



私はいつも、「英語としては問題がないけど、テストの解答としては間違いになる可能性があるから、英語担当の先生に確認するように。」と答えています。

特に中学校初期の英語の定期テストは、高得点者が続出します。採点する側からすると、細かい部分で×をつけるしかありません。よって、上記のように書くと×になる恐れがあるからです。

be 動詞現在形

1. be 動詞の使い分け

be 動詞には三つの種類があります。

- 1.主語が I の場合…am
- 2.主語が You もしくは複数の場合…are
- 3.主語が 3 人称 の場合…is

人称とは、以下のことです。

- 自分 → 1 人称
- 相手 → 2 人称
- その他 → 3 人称

例文：

I am a student.

(私は生徒です。)

You are a tennis player.

(あなたはテニスの選手です。)

He is a doctor.

(彼は医者です。)

She is at home.

(彼女は家にいます。)

This is an apple.

(これはリンゴです。)

That is a ball.

(あれはボールです。)

2. be 動詞の意味

be 動詞には2つの意味があります。

1 「～です」

例文：

I am a student. （私は生徒です。）

It is a book. （それは本です。）

2 「～にいます」「～にあります」

例文：

You are in the class.

（あなたは教室にいます。）

The baseball game is today.

（野球の試合が今日あります。）

※この場合、be 動詞の後に場所や時間を表す言葉がくることが多い。

3. be 動詞の英作文

1 肯定文

主語＋述語 (be 動詞) ＋～.

例文： 私は中学生です。

⇒ まずは単語に

私は 中学生 です。

(I) (a junior high school student) (am)

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

I am a junior high school student. (完成)

どうですか？それほど難しくはないと思います。もう一問やってみます。

例文： 彼女は庭にいます。

⇒ まずは単語に

彼女は 庭に います。

(She) (in the garden) (is).

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

She is in the garden. (完成)

単語力が非常に大切なことがわかりますね。

さて、次は否定文に入ります。

2 否定文

主語＋述語 (be 動詞) ＋ not ＋～.

否定文は「～でない」を表し、not が「～でない」の意味です。肯定文の、be 動詞の直後に not をつけるだけで否定文が完成します。すぐに理解できますよ。

例文： 彼は先生ではありません。

⇒ まずは単語に

彼は 先生 ではありません。

(He) (a teacher) (is not).

⇒ これを 主語＋述語＋ not ～. に並べると、

He is not a teacher. (完成)

先ほども述べましたが、

be 動詞の直後に not をつけるだけです。

では、もっと簡単にもう一間

例文： 私は生徒です。(I am a student.)

上で出てきた例文です。

これを否定文にしてみます。

またまた述べますが、

be 動詞の直後に not をつけるだけです。

⇒ be 動詞の直後に not をつけるだけ

I am not a student.

(私は生徒ではありません。)

さて、実はこの **not** には短縮形があります。「長いので短くしよう」というわけです。
次の二種類を覚えて下さい。

- 1.is not → isn't
- 2.are not → aren't

この短縮形は、
使っても使わなくても、どちらでも OK です。
だからすぐ上の例文は、

He is not a teacher. ⇔ He isn't a teacher.

どちらでも正解です。
もう 1 つ重要なことは、
am not の短縮形はないことです。

3 疑問文

述語 (be 動詞) + 主語 + ～ ?

疑問文は、「～ですか。」 「～いますか。」を表す文です。be 動詞を文頭に持っていくだけで疑問文が完成します。ピリオドを?にすることも忘れないで下さい。

また、答え方にもルールがあります。では、疑問文とその答え方を学習しましょう。

例文： I am a student. (私は生徒です。)

疑問文： Am I a student? (私は生徒ですか。)

変な日本語と思うかもしれませんが、be 動詞を文頭に持っていくだけで疑問文ができました。次は答え方です。

「はい」の場合

Yes, +主語+be 動詞.

「いいえ」の場合

No, +主語+be 動詞+ not.

すぐ上の疑問文に答えてみます。

Yes, you are. (はい、そうです。)

No, you are not. (いいえ、ちがいます。)

あれ? と思いませんでしたか? そうです、疑問文と答えでは主語が変わっています。でも、理屈で考えたら簡単ですよ。分かりやすいように、日本語の例文にしましょう。

例えば、想像してみてください。あなたは、今友達と二人で会話をしています。

A : 私は掃除係ですか?

B : はい、あなたはそうです。

(いいえ、あなたはちがいます。)

どうですか？主語が変わっているのがわかりますね。会話の流れからして、主語が変わるのは当然です。では、もう一つのパターンを見てください。

例文：

You are a tennis player.

(あなたはテニスの選手です。)

疑問文：

Are you a tennis player?

(あなたはテニスの選手ですか。)

答え方：

Yes, I am. (はい、そうです。)

No, I am not. (いいえ、ちがいます。)

質問されたので、答えるのは私。だから主語は **I** です。

実は主語を変えないパターンもあります。

例文：

They are your friends.

(彼らはあなたの友人です。)

疑問文：

Are they your friends?

(彼らはあなたの友人ですか。)

答え方：

Yes, they are. (はい、そうです。)

No, they are not. (いいえ、ちがいます。)

主語が変わっていません。これも想像したら分かると思います。私とあなたが「彼ら」について話をしているので、「彼ら」という主語は変化しません。同じようなパターンが以下の例文です。

疑問文：

Is he a doctor? （彼は医者ですか。）

答え方：

Yes, he is. （はい、そうです。）

No, he is not. （いいえ、ちがいます。）

疑問文：

Is she at home? （彼女は家にいますか。）

答え方：

Yes, she is. （はい、います。）

No, she is not. （いいえ、いません。）

主語が変わらないパターンは楽です。しかし、もう一つパターンがあります。いままでみてきたのは、主語＝人の文ですが、主語＝物になるとどうなるのでしょうか。下がその例文です。

例文：

This is an apple. （これはリンゴです。）

疑問文：

Is this an apple? （これはリンゴですか。）

疑問文の作り方は同じです。be 動詞を文頭に持っていくだけです。答え方が少し変わります。

答え方：

Yes, it is. （はい、そうです。）

No, it is not. （いいえ、ちがいます。）

物が主語の場合は、it で答えなければなりません。以下もその例です。

疑問文：

Is that a ball? （あれはボールですか。）

答え方：

Yes, it is. （はい、そうです。）

No, it is not. （いいえ、ちがいます。）

物が主語の場合は、it で答えることを覚えて下さい。

4. 短縮形

否定文で少し学びましたが、もう少しだけ短縮形を覚えて下さい。

- I am = I'm
- you are = you're
- they are = they're

例文 1. : 私は少年です。

I am a boy. = I'm a boy.

例文 2. : あなたは美しい。

You are beautiful. = You're beautiful.

例文 3. : 彼らは私のクラスメイトだ。

They are my classmates.

= They're my classmates.

それほど難しくないと思います。短縮形は意外と出題されますので、必ず覚えて下さい。

can

1. can とは？

can とは助動詞で「～できる」の意味です。比較的、皆さん簡単に理解できるようで
す。また、must と同じで「～にちがいない」の意味もあります。

2. can の英作文

1 肯定文

主語 + can + 述語（動詞の原形） + ～.

まずは「～できる」の意味の例文を紹介します。

例文： 私は英語を話すことができます。

⇒ まずは単語に

私は 英語を
(I) (English)
話す ことができます。
(speak) (can).

⇒ これを 主語 + can + 述語 + ～. に並べると、
I can speak English. (完成)

主語が 3 人称単数でも can + 動詞の原形です。

例文： 彼女はピアノを弾くことができます。

⇒ まずは単語に

彼女は ピアノを
(She) (the piano)
弾く ことができます。
(play) (can).

⇒ これを 主語 + can + 述語 + ～. に並べると、
She can play the piano. (完成)

このように、一般動詞の肯定文を can の文にする場合は、動詞の直前に can を置けば OK です。もう一つ、主語が they の例文を挙げておきます。

例文：

[肯定文]

They use this computer.
(彼らはこのコンピューターを使う。)

[can の文]

They can use this computer.
(彼らはこのコンピューターを使うことができる。)

では次は、「～にちがいない」の意味で英作します。

例文： それは真実に違いない。
まるでコロン君の台詞みたいです。

⇒ まずは単語に
それは 真実に 違いない。
(It) (the truth) (must be).

⇒ これを 主語 + can + 述語 + ～. に並べると、
It can be the truth. (完成)

これで OK です。「～できる」「～にちがいない」のどちらの意味で使う場合も、can の位置や英作文の作り方は同じです。

2 否定文

主語 + can not (can't) + 述語 (動詞の原形) + 〜.

can の直後に not を置くだけです。まずは「〜できる」の意味の否定文を紹介します。

例文： 彼はフランス語を話すことができません。

⇒ まずは単語に

彼は フランス語を
(He) (French)
話す ことができません。
(speak) (can not).

⇒ これを 主語 + can not + 述語 + 〜. に並べると、

He can not speak French. (完成)
(= He can't speak French.)

このようになります。

元々できあがっている can の肯定文を否定文に変化するには、can の直後に not を置くだけです。

例文：

[肯定文]

I can write a letter in English.
(私は英語で手紙を書けます。)

[否定文]

I can not write a letter in English.
(私は英語で手紙を書けません。)

では次は、「〜にちがいない」の意味で否定文をつくります。1 の文をそのまま使います。

例文：

それは真実に違いない。
(It must be the truth.)

⇒ can の直後に not を置くと、
It can not be the truth.
(それは真実なわけがない。)

このようになります。

3 疑問文

Can + 主語 + 述語 (動詞の原形) + ～ ?

Can を文頭に持っていきだけで疑問文が完成します。「～にちがいない」の意味での疑問文はあまり使いませんので省略します。

例文：

He can run very fast.
(彼はとても速く走ることができます。)

この文を疑問文にします。can を文頭に持っていきだけです。

⇒ Can he run very fast?
(彼はとても速く走ることができますか。)

「はい」の場合

Yes, + 主語 + can.

「いいえ」の場合

No, + 主語 + can not (can't).

ここで注意しなければならないのは、疑問文と答えの主語が変わる場合があることです。詳しくは be 動詞現在形を参照下さい。では、すぐ上の疑問文に答えてみます。

答え方：

Yes, he can.

(はい、走れます。)

No, he can not (can't).

(いいえ、走れません。)

can は出題率が高い割に、難易度が低い単位だと思います。理解しやすい単位だと思いますので、しっかりと身に付けてください。

3. 疑問詞を含む文

ここでは、よく出題される、what と who の can を含む文を紹介したいと思います。

1 what

疑問詞＋疑問文で出来上がります。

例文： あなたは何が見えますか。

この例文を英作します。すぐ上に記しているように、疑問詞と疑問文さえわかればすぐにできます。

疑問詞は？

“何が” は what なので、疑問詞は what できまりです。

疑問詞…what

疑問文は？

疑問詞の後ろは普通に疑問文をつくるので、「何が」を省いてのこった文は「あなたは見えますか。」となります。これを英作文して、

疑問文…Can you see?

疑問詞＋疑問文で完成

上の疑問詞と疑問文をひっつけて完成です。

What can you see?

2 who

これも疑問詞＋疑問文で OK です。

例文： 誰が彼女を手伝えますか。

この例文を英作します。疑問詞と疑問文を探っていきます。

疑問詞は？

“誰が” となっているので、文頭は **who** で決まりです。

疑問詞…**who**

疑問文は？

「誰が」以外の「彼女を手伝えますか。」を疑問文にします。

疑問文…**Can help her?**

疑問詞＋疑問文で完成

上の疑問詞と疑問文をひっつけて完成です。

Who can help her?

can の単元で疑問詞が出てくると混乱する方が多いですが、疑問詞＋疑問文の形を作ることを覚えて下さい。

4. can の書き換え

can = **be able to**＋動詞の原形

can は **be able to**＋動詞の原形に書き換えることができます。以下に例文を示します。

例文：

He can drive a car.

= **He is able to drive a car.**

(彼は車を運転することができます。)

Can he drive a car?

= Is he able to drive a car?

(彼は車を運転することができますか?)

He can't drive a car.

= He isn't able to drive a car.

(彼は車を運転することができません。)

以上のように、どちらを使っても正しい英文です。では **be able to** を使う利点を説明します。

英語は、助動詞+助動詞というように、助動詞を続けて使うことはできません。
例えば、

例文：

He will can drive a car.

(彼は車を運転できるようになるでしょう。)

この文は正しくありません。なぜならば、共に助動詞である **will** と **can** が連続しているからです。

こういう場合に、**be able to** が役立ちます。**can** を **be able to** にします。

He will be able to drive a car.

こうすることで、助動詞の連続を防ぐことができます。
なお、**will** も **be going to** に書き換えることが可能なので、この場合は、

He is going to be able to drive a car.

このような文にしても構いません。助動詞の連続使用を避ければ **OK** です。

How の文

1. How とは？

how とは、「どのように」を表す単語です。be 動詞や一般動詞を伴うことが多く、また、決まった言い方も多くあります。ここでは決まった言い方を中心に解説します。すべてが重要な表現なので、じっくりと学習しましょう。

2. how の英作文

1 一般的な型

How + 疑問文

意味： 「どのように～しますか」

これは、be 動詞や一般動詞を理解していれば、すんなりと理解できると思います。では、一般動詞の文を how の疑問文に変化させて、how の文を練習していきます。

例文：

You go to school by bus.

(あなたはバスで学校に行きます。)

まずはこの文を、普通に疑問文にします。

⇒ まずは疑問文に

Do you go to school by bus?

(あなたはバスで学校に行きますか。)

Do を文頭に置いて疑問文が完成しました。

次は、

「あなたはバスで学校に行きますか。」

→ 「あなたはどのようにして学校に行きますか。」

に変化させます。「バスで→どのようにして」このように変化しますので、「by bus →

how」に置き換えます。

⇒ by bus → how に

Do you go to school how?

疑問詞は文頭に置かなければならないので、最後に、how を文頭に持って行って、

⇒ how を文頭に

How do you go to school?

これで完成です。そして、答え方は「主語＋述語～」です。

⇒ 答え方

I go to school by bus.

これで OK です。ちなみに、交通手段は by＋交通手段 で表現できます。交通手段を表す場合、冠詞は不要です。参考までに、過去形と 3 人称の例文を挙げておきます。

例文：

[過去形]

How did they go to Tokyo?

(彼らはどうやって東京に行きましたか。)

They went to Tokyo by plane.

(彼らは飛行機で東京に行きました。)

[3 人称]

How does he go to the station?

(彼はどうやって駅に行きますか。)

He goes to the station by bike.

(彼は自転車で駅に行きます。)

2 挨拶（友達に）

How are you?

意味： 「元気ですか？」

これは最初に習う挨拶です。学校の先生も、授業の始めにこの挨拶をするのではないのでしょうか。

そして、これに対する返事は、

I'm fine, thank you. How are you?

意味： 「元気です、ありがとう。 あなたはどうですか。」

最後の「How are you?」を「And you?」と言う時もしばしばあります。

3 挨拶（初対面に）

How do you do?

意味： 「はじめまして。」

これは初対面の人に挨拶するときに使う表現です。決して「How are you?」と話し掛けないで下さい。

そして、これに対する返事は、

How do you do?

意味： 「はじめまして。」

返事もまったく同じです。

また、これと同じ場面で使われる表現に、「Nice to meet you.」があります。これも初対面の挨拶で使われるもので、返事も「Nice to meet you.」です。

4 提案等

How about + 名詞・代名詞・動名詞？

意味： 「～はどうですか」

これはすごく便利な表現なので、ぜひ覚えて下さい。会話形式で例を挙げます。

例文：

A： I like mathematics.

A： How about you?

B： I like it, too.

A： How about history?

B： I don't like it.

A： How about playing a game?

B： O.K.

日本語訳：

A： 私は数学が好きです。

A： あなたはどうですか。

B： 私も好きです。

A： 歴史はどうですか。

B： 好きではありません。

A： ゲームしませんか。

B： いいですよ。

このように、How about の後に言葉をつなげるだけで、いろいろな場面で使えます。

5 数の尋ね方 1

How many + 名詞の複数形 + 疑問文

意味： 「いくつ～を…ますか」

これは必須項目です。特にテストでは、名詞を複数形に変形させる問題がよくです。
では、用法を例文で確認します。

例文：

You have two cats.

(あなたは猫を二匹飼っています。)

まずはこの文を、普通に疑問文にします。

⇒ まずは疑問文に

Do you have two cats?

(あなたは猫を二匹飼っていますか。)

次は、

「あなたは猫を二匹飼っていますか。」

→ 「あなたは猫を何匹飼っていますか。」

に変化させます。「猫を二匹→猫を何匹」このように変化しますので、「two cats → how many cats」に置き換えます。

⇒ two cats → how many cats に

Do you have how many cats?

最後に、 how many cats を文頭に持っていきます。

⇒ how many cats を文頭に

How many cats do you have?

これで完成です。そして、答え方は「主語＋述語～」です。疑問文から判断して、主語と動詞を選択して下さい。また、単に数字だけを答える場合もあります。

⇒ 答え方

I have two cats. (Two.)

では、もう一つ例文を挙げておきます。

例文：

How many hamburgers do you want?
(何個のハンバーガーが欲しいですか。)

Three, please.
(三個お願いします。)

ファーストフード店でよく聞く会話です。

6 数の尋ね方 2

How many + 名詞の複数形 + 動詞 + 〜?

意味： 「いくつの〜が…ですか」

このパターンは、「How many + 名詞の複数形」の部分が主語になるパターンです。
Who の文と似ています。ではいつものように例文で学習します。

例文：

150 students study at this school.
(150人の生徒がこの学校で学んでいます。)

まずはこの文を、普通に疑問文にします。

⇒ まずは疑問文に

Do 150 students study at this school?
(150人の生徒がこの学校で学んでいますか。)

次は、

「150人の生徒がこの学校で学んでいますか。」
→ 「何人の生徒がこの学校で学んでいますか。」

に変化させます。「150人の生徒が→何人の生徒が」このように変化しますので、「150

students → how many students」に置き換えます。

⇒ 150 students → how many students に

Do how many students study at this school?

「how many students」が主語になり、主語＋述語の形になっているので、このパターンは Do がいきりません。

⇒ Do をとって、

How many students study at this school?

これで完成です。では答え方です。

○ 数字＋名詞（複数形）＋do.

数字が2以上なら名詞は複数形にして下さい。また、この do は動詞の繰り返しをさけるためのものです（代動詞）。やはり、Who の文と似ています。

⇒ 答え方

150 students do.

少し難しいと思いますが、何回も問題を解いてマスターして下さい。

7 長さの尋ね方

How long + 動詞＋主語？

意味： 「～の長さはどれくらいですか」

これはよく出てきます。物や期間の長さを聞くときに使います。

答え方は、

○ 主語＋動詞＋数字.

では例文です。暗記して下さい。

例文：

How long is the bridge?

(その橋の長さはどれくらいですか。)

It's 800 meters long.

(800メートルです。)

How long is that rope?

(そのロープの長さはどれくらいですか。)

It's 1 meter long.

(1メートルです。)

8 値段の尋ね方

How much +be 動詞+主語?

意味： 「～はいくらですか」

これはよく出てきます。値段を聞くときに使います。

答え方は、

○ 主語+be 動詞+数字+ **yen.**

「～は…円です」という意味です。では例文です。

例文：

How is this pen?

(このペンはいくらですか。)

It's 200 yen.

(200円です。)

How much are those apples?

(あれらのリンゴはいくらですか。)

They are 500 yen.

(500円です。)

9 年齢の尋ね方

How old +be 動詞+主語?

意味： 「～は何歳ですか」

これはよく聞く表現です。完全に暗記して下さい。

答え方は、

○ 主語+be 動詞+数字+years old.

「～は…歳です」という意味です。では例文です。

例文：

How old are you?

(あなたは何歳ですか。)

I'm 13 years old.

(私は13歳です。)

How old is he?

(彼は何歳ですか。)

He is 53 years old.

(彼は53歳です。)

How old is your brother?

(あなたの弟は何歳ですか。)

He is 7 years old.

(彼は 7 歳です。)

10 身長 of 尋ね方

How tall +be 動詞+主語?

意味： 「～の身長はいくつですか」

これは定期テスト等でよく出題されます。

答え方は、

○ 主語+be 動詞+数字+ **centimeters tall.**

「～は…センチメートルです」という意味です。最後の **centimeters tall** がポイントです。最後の **tall** を忘れないで下さい。 **meters tall** (～メートルです) としても OK です。また、数字が 1 なら単数 (**centimeter , meter**) にして下さい。

例文：

How tall are you?

(あなたの身長はいくつですか。)

I'm 165 centimeters tall.

(私は 1 6 5 センチメートルです。)

How tall is your sister?

(あなたの妹の身長はいくつですか。)

She is 1.21 meters tall.

(彼女は 1 . 2 1 メートルです。)

11 高さの尋ね方

How high +be 動詞+主語?

意味： 「～の高さはどれくらいですか」

この文も覚えておくと便利です。人の高さ（身長）ではなく、建物等の高さを聞くときに使います。

答え方は、

○ 主語+be 動詞+数字+ centimeters high.

「～は…センチメートルです」という意味です。centimeters → meters としても構いません。数字が1なら単数 (centimeter, meter) にして下さい。もちろん、最後の high を忘れないで下さい。

例文：

How high is Mt. Fuji?

(富士山の高さはどれくらいですか。)

It's 3776 meters high.

(3 7 7 6 メートルです。)

How high is that table?

(あのテーブルの高さはどれくらいですか。)

It's 85 centimeters high.

(8 5 センチメートルです。)

副詞

1. 副詞の用法

副詞とは動詞・形容詞・副詞を修飾する語のことで、副詞には大きく分けて三つの用法があります。

1 動詞を修飾する場合

動詞 + (目的語) + 副詞

例文：

He plays tennis well.

(彼はテニスを 上手に します。)

この例文では、ただ単に「テニスをする」のではなく、「上手にする」と熟練度を詳しく説明しているので、動詞を修飾していることになります。

もう 1 つ例文です。

例文：

We study English every day at school.

(私たちは 毎日 学校で英語を 勉強します。)

A diagram of a 1D lattice with 10 sites. Each site is represented by a horizontal line segment with an arrow pointing to the right. Above the first site is a downward-pointing arrow, and above the last site is an upward-pointing arrow.

この例文では、ただ単に「勉強する」のではなく、「どのくらい」勉強するのかを説明しているので、動詞を修飾していることがわかります。

2 形容詞を修飾する場合

副詞＋形容詞

例文：

This park is very beautiful.

↓ ↑
→→→

(この公園は とても 美しい。)

↓ ↑
→→→

この例文では、ただ単に「美しい」のではなく、「とても」をつけて「どのくらい」美しいのかを説明しています。

3 副詞を修飾する場合

副詞＋副詞

例文：

They practice baseball very hard.

↓ ↑
→→

(彼らは とても 熱心に 野球を練習します。)

↓ ↑
→→→

この例文では、ただ単に「熱心に」ではなく、「とても」をつけて「どのくらい」熱心なのかを説明しています。

またこの例文は、very hard が practice を修飾する、動詞を修飾するパターンでもあります。

2. 頻度を表す副詞

次に紹介する「頻度の副詞」は、一般動詞の直前、be 動詞の直後に置いて下さい。

1 always (いつも)

例文：

[be 動詞]

I am always hungry.

(私はいつもお腹が減っています。)

[一般動詞]

He always gets a perfect score.

(彼はいつも満点をとります。)

2 often (よく、しばしば)

例文：

[be 動詞]

You are often late for school.

(あなたはよく学校に遅刻します。)

[一般動詞]

We often go shopping.

(私たちはよく買い物に行きます。)

3 usually (たいてい)

例文：

[be 動詞]

I am usually at home.

(私はたいてい家にいます。)

[一般動詞]

He usually gets up at seven.

(彼はたいてい七時に起きます。)

4 sometimes (ときどき)

例文：

[be 動詞]

Mike is sometimes late for school.

(マイクはときどき学校に遅刻します。)

[一般動詞]

You sometimes eat natto.

(あなたはときどき納豆を食べます。)

3. too の注意すべき用法

too には、以下の二つの意味があるので注意して下さい。

1 ～すぎる

例文：

He got up too late.

(彼が起きるのは遅すぎました。)

It is too cold to swim.

(泳ぐには寒すぎました。)

2 ～もまた

例文：

I can play the piano, too.

(私もまたピアノを弾くことができます。)

too の直前のコンマは、意味上の混乱がなければ省略することがあります。

そして、「～もまた」の意味で使う too は、 also の文に書き換えることができます。

I can play the piano, too.

= I can also play the piano.

不定代名詞

1. 不定代名詞とは

読んで字のごとく「不特定の人・物・数・量を表す語」を不定代名詞といいます。

この代名詞は非常に重要なものです。それぞれどんな場合に使うのか、そしてどのように使うのかを理解して、正しく使えるようになって下さい。

2. 使い方

1 some と any (いくつか)

some と any は、2つとも意味は同じですが、some は肯定文で any は否定文・疑問文でそれぞれ使います。

例えば、「私は何枚か写真を持っています。」これを英作すると、

⇒ I have some pictures.

では、この文を否定文と疑問文にしてみます。上記にもありますが、注意点として、some は「否定文・疑問文では any」になります。そして、否定文の any は「ひとつも～ない」の意味になります。疑問文の any の意味は変わりません。

[否定文]

I don't have any pictures.

(私は一枚も持っていない。)

[疑問文]

Do you have any pictures?

(あなたは写真を何枚か持っていますか。)

このように正しく **any** と **some** を使い分けて下さい。

しかし本来なら使わない、**some** を疑問文、**any** を肯定文で使う場合もあります。それは次のような時です。

○ 疑問文の **some** → 何かをすすめる時

例文：

Would you like some tea?

(紅茶はいかがですか。)

何かをすすめて、相手が **Yes** と言うのを期待するときに **any** ではなく **some** を使います。

○ 肯定文の **any** → どれでも、だれでも

例文：

You can use any tool.

(どの道具でも使っていていいですよ。)

この場合、**any** + 単数形 になることも注意して下さい。

2 another (別の 1 つ)

another はすでに出てきた名詞の代わりに使います。

例文：

I read a book and bought another.

(私は本を一冊読み、もう一冊買いました。)

また、形容詞として使うこともあります。

例文：

Would you like another cup of coffee?

(コーヒーをもう一杯いかがですか。)

3 other (ほかのもの)

other は様々な使い方があります。

○ the other (2つのうちの残り1つ)

例文：

I ate one piece of cake and my brother ate the other.

(私がケーキを1つ食べて、残りの1つを弟が食べました。)

○ the others (いくつかあるうちの残り全部)

例文：

I ate two pieces of cake and my brother ate the others.

(私がケーキを2つ食べて、残り全部を弟が食べました。)

○ others (ほかのいくつか)

例文：

I ate some pieces of cake and my brother ate others.

(私がいくつかケーキを食べて、ほかのいくつかを弟が食べました。)

4 all (すべて) と none (すべて…ない)

○ all+of+～ (～すべて)

例文：

All of the story was written by him.

(その話のすべては彼に書かれた。)

All of them were surprised at the news.

(彼らの全員がその知らせに驚きました。)

○ **none + of + ~** (～すべて…ない)

例文：

None of the students knew the accident.

(生徒全員がその事件を知りませんでした。)

5 both (両方) **either** (一方) **neither** (両方とも～ない)

○ **both of + ~** (～の両方)

例文：

Both of the girls belong to the brass band club.

(その女の子は二人とも吹奏楽部員です。)

また、**both** の否定文は部分否定といってよく出題されます。

例文：

Both of us are not to blame.

(我々二人ともが悪いわけではありません。)

○ **either of + ~** (～の一方)

この形は通例単数扱いですが、複数扱いで使われることもあります。ここでは単数扱いとして例文を紹介しています。

例文：

Either of the girls belongs to the brass band club.

(その女の子の一人は吹奏楽部員です。)

○ **neither of + ~** (～の両方とも…ない)

この形は通例単数扱いですが、複数扱いで使われることもあります。ここでは単数扱いとして例文を紹介しています。

例文：

Neither of the girls belongs to the brass band club.

(その女の子の両方とも吹奏楽部員ではありません。)

一般動詞現在形

1. 一般動詞とは

一般動詞とは、be 動詞(am , is , are)以外の動詞です。例えば、

- study … 勉強する
- play … する
- speak … 話す
- go … 行く
- like … 好き
- want … 欲しい 等

の動詞のことです。また、be 動詞は人称で変化しましたが、基本的に、一般動詞は変化しません。ちなみに、人称とは、

- 1 人称…私、僕、俺 etc (am)
- 2 人称…あなた、君 etc (are)
- 3 人称…上記以外全部 (is)

このように分類されます。必ず覚えて下さい。

2. 一般動詞の英作文

1 肯定文

主語＋述語（一般動詞）＋～.

例文： 私は英語を勉強します。

⇒ まずは単語に

私は 英語を 勉強します。

(I) (English) (study).

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、
I study English. (完成)

どうですか？それほど難しくはないと思います。もう一問やってみます。

例文： あなたはテニスをします。

⇒ まずは単語に
あなたは テニスを します。
(You) (tennis) (play).

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、
You play tennis. (完成)

be 動詞の項目でも述べましたが、単語力がないと解けません。日ごろから勉強して、単語を毎日一つずつ、しっかりと覚えて下さい。

では、次は否定文に入ります。

2 否定文

主語＋do not (don't)＋述語 (一般動詞) ＋ ～.

否定文は「～でない」を表し、not が「～でない」の意味です。また、「do not」を「don't」に短縮してもかまいません。

注意すべき点は、be 動詞の否定文は not を be 動詞の直後に置きましたが、一般動詞の否定文は動詞の直前に do not を置くことです。

例文： 私は英語を勉強しません。

⇒ まずは単語に
私は 英語を 勉強し ません。
(I) (English) (study) (do not).

⇒ これを主語 + do not + 述語 + 〜. に並べると、
I do not study English. (完成)
(= I don't study English.)

これで完成です。

動詞の直前に do not を置いて下さい。

では、もっと簡単にもう一間

例文： あなたはテニスをします。
(You play tennis.)

上で出てきた例文です。これを否定文にしてみます。

またまた述べますが、動詞の直前に do not を置くだけです。

⇒ 動詞の直前に do not を置くだけ
You do not play tennis.
(= You don't play tennis.)
(あなたはテニスをしません。)

be 動詞と一般動詞の疑問文の違いがわかりましたか？be 動詞は直後に not 、一般動詞は直前に do not です。以下に例文を挙げるので、違いをよく観察してください。

例文： be 動詞

[肯定文]

I am a student.
(私は生徒です。)

[否定文]

I am not a student.
(私は生徒ではありません。)

[肯定文]

You are a teacher.

(あなたは先生です。)

[否定文]

You are not a teacher.

(あなたは先生ではありません。)

例文： 一般動詞

[肯定文]

I speak English.

(私は英語を話します。)

[否定文]

I do not speak English.

(私は英語を話しません。)

[肯定文]

You have a car.

(あなたは車を持っています。)

[否定文]

You do not have a car.

(あなたは車を持っていません。)

be 動詞と一般動詞の否定文の違いを理解してください。

3 疑問文

Do + 主語 + 述語 (一般動詞) + ～？

疑問文は、「～ですか。」 「～いますか。」を表す文です。Do を文頭に持っていくだけで疑問文が完成します。ピリオドを？にすることも忘れないで下さい。

では、疑問文とその答え方の例文です。

例文： You speak English.
(あなたは英語を話します。)

疑問文：
Do you speak English?
(あなたは英語を話しますか。)

このように、Do を文頭に置くだけで疑問文ができました。次は答え方です。

「はい」の場合
Yes, +主語+do.

「いいえ」の場合
No, +主語+do not (don't).

すぐ上の疑問文に答えてみます。

Yes, I do. (はい、話します。)

No, I do not (don't). (いいえ、話しません。)

be 動詞と同じく、疑問文と答えでは主語が変わっています。質問する人と答える人の立場を考えながら、落ち着いて答えて下さい。

チェックポイント

最後にまとめとして、よくしてしまうミスを紹介します。英作文をする時に、一般動詞に慣れないうちは、be 動詞と一般動詞の疑問文を一緒にしてしまう人が多いです。しっかり練習して、きちんと区別できるようになって下さい。その例文を挙げておきますので、違いを把握して下さい。

○ be 動詞の文は be 動詞を文頭に

[肯定文]

You are a student.

(あなたは生徒です。)

[疑問文]

Are you a student?

(あなたは生徒ですか。)

○ 一般動詞の文は DO を文頭に

[肯定文]

You study math.

(あなたは数学を勉強します。)

[疑問文]

Do you study math?

(あなたは数学を勉強しますか。)

一般動詞 3 単現

1. 3 単現とは？

3 単現とは、「3 人称、単数、現在」の 3 つの条件のことです。これらすべての条件を満たすと、一般動詞が変化します。もっとも、“現在”という条件にはあまり神経をつきません。

この項目では主語に注目します。具体的には、

- 代名詞…He, She, This, That, It 等
- 固有名詞…Mike, Nancy, Paul 等
- 一般名詞…A dog, A desk, A chair 等

が主語の文は要注意です。

そして、人称も区別できるようにならないといけません。

- 1 人称…私、僕、俺 etc (am)
- 2 人称…あなた、君 etc (are)
- 3 人称…上記以外全部 (is)

最初はややこしくて混乱するかもしれませんが、粘り強く学習して下さい。

2. 3 単原の作り方

主語が 3 単原の英作文を作るには、以下の s, es のつけ方を知っておかなければなりません。

1. s, sh, ch, o で終わる動詞

原形に es をつけます。

go → goes

wash → washes 等

2. <子音字+ y>で終わる動詞

最後の y を i に変えて es をつけます。

study → studies

carry → carries 等

3. 1 と 2 以外の動詞

原形に s をつけます。

like → likes

speak → speaks 等

4. have

have → has にします。

これらの 4 つのルールを覚えて下さい。

3. 3 単現が主語の英作文

1 肯定文

一般動詞に s, es をつける

例文：

I like English.

(私は英語が好きです。)

⇒ 主語が 3 単現に変わると、

He likes English.

(彼は英語が好きです。)

このように変化させなければなりません。もう 1 つ例文を紹介します。

例文：

They watch TV.

(彼らはテレビをみます。)

⇒ 主語が3単現に変わると、

My father watches TV.

(私の父はテレビをみます。)

以上のように主語が3単現の場合は、一般動詞の原形に **s, es** のどちらかをつけなければなりません。ただし、**be** 動詞には必要ありませんので注意して下さい。

2 否定文

主語 + **does not (doesn't)** + 動詞の原形 + 〜.

1人称や2人称では「**do not**」を動詞の直前に置きましたが、主語が3単現の文では「**does not (doesn't)**」を動詞の直前に置きます。そしてこの時、直後の一般動詞は原形になります。

では例文を挙げますので、違いに注意して下さい。

1人称 :

[肯定文]

I like English.

(私は英語が好きです。)

[否定文]

I do not (don't) like English.

(私は英語が好きではありません。)

2人称 :

[肯定文]

You like English.

(あなたは英語が好きです。)

[否定文]

You do not (don't) like English.

(あなたは英語が好きではありません。)

3人称 :

[肯定文]

She likes English.

(彼女は英語が好きです。)

[否定文]

She does not (doesn't) like English.

(彼女は英語が好きではありません。)

元々 like についていた s が、否定文になると do にくっつくと思って下さい。そして、s が無くなった like は原形です。

以上のように、主語が3人称の文のみ変化します。さらに例文を紹介しますので、ミスをしていないためにも何回もチェックして下さい。

例文 :

[肯定文]

Masao studies English.

(マサオは英語を勉強します。)

[否定文]

Masao does not study English.

(マサオは英語を勉強しません。)

[肯定文]

Yumi plays tennis.

(ユミはテニスをします。)

[否定文]

Yumi does not play tennis.

(ユミはテニスをしません。)

[肯定文]

He speaks English.

(彼は英語を話します。)

[否定文]

He does not speak English.

(彼は英語を話しません。)

[肯定文]

My mother has a car.

(私の母は車を持っています。)

[否定文]

My mother does not have a car.

(私の母は車を持っていません。)

3 疑問文

Does + 主語 + 動詞の原形 + ～ ?

Do ではなく「**Does**」を文頭に置くだけで文が完成します。動詞を原形にすることも忘れないようにして下さい。

「はい」の場合

Yes, + 主語 + **does**.

「いいえ」の場合

No, + 主語 + **does not (doesn't)**.

主語が1人称や2人称では **do** を使いましたが、3人称では **does** を使います。

では例文です。

1 人称 :

[肯定文]

I like English.

(私は英語が好きです。)

[疑問文]

Do I like English?

(私は英語が好きですか。)

[答え]

Yes, you do.

(はい、好きです。)

No, you do not.

(いいえ、好きではありません。)

2 人称 :

[肯定文]

You like English.

(あなたは英語が好きです。)

[疑問文]

Do you like English?

(あなたは英語が好きですか。)

[答え]

Yes, I do.

(はい、好きです。)

No, I do not.

(いいえ、好きではありません。)

3 人称 :

[肯定文]

She likes English.

(彼女は英語が好きです。)

[疑問文]

Does she like English?

(彼女は英語が好きですか。)

[答え]

Yes, she does.

(はい、好きです。)

No, she does not.

(いいえ、好きではありません。)

疑問文も、元々動詞についていた **s** が **Do** にくっついたと思って下さい。そして、動詞を原形にすることを忘れないで下さい。

冠詞

1. 冠詞とは？

名詞の直前につき、どのような名詞なのかを説明する語を冠詞といいます。不定冠詞（a, an）と、定冠詞（the）があります。

a や the は、すでに知っていると思います。しかし、どちらを付ければいいのかわからないことがよくあります。それぞれの用法をしっかりと学んで、正しく冠詞を使えるようになって下さい。

2. 不定冠詞の意味と用法

不定冠詞とは a や an のことです。5つの意味を紹介します。

1 一つの

a+名詞

これは一番有名な a の意味です。次にくる名詞が母音で始まる場合は an にして下さい。

例文：

I want a pair of socks.
(私は靴下1足が欲しい。)

He waited his friends for an hour.
(彼は友達を1時間待った。)

※ hour は h から始まる単語ですが、母音から始まる発音なので an にします。

2 ある～

a+名詞

不特定の誰か、何かを指す場合に使います。日本語では訳さないことが多いです。

例文：

A boy is standing by the post.

(ポストの側に少年が立っています。)

3 〜につき、〜ごとに

a+名詞

よく見かける表現です。必ず覚えて下さい。

例文：

They go trip five times a year.

(彼らは年に5回旅行に行きます。)

She takes piano lessons twice a week.

(彼女は週に2回ピアノのレッスンを受けます。)

4 〜というもの

a+名詞

これもよく見る表現です。

例文：

A bird flies in the sky.

(鳥というものは空を飛びます。)

5 〜という人

a+固有名詞

会話文で時々ある表現です。

例文：

We had a call from a Mr. Brown.

(ブラウンさんという人から電話がありました。)

2. 定冠詞の意味と用法

定冠詞とは **the** のことです。4つの意味を紹介します。

1 既出の名詞を表す場合

the＋名詞

すでに話題にあがり、何を指しているのかわかる場合は **the** をつけます。「その」と訳します。

例文：

I bought a book.

(私は本を買いました。)

The book was interesting.

(その本はおもしろかったです。)

2 話題にはでてないが特定できる場合

the＋名詞

まだ話題にはあがっていないものの、状況でわかる場合は、初めて使用する場合でも **the** を使います。

例文：

Please pass me the salt.

(その塩をとって下さい。)

3 ただ1つしかないもの

the＋名詞

太陽や地球など、1つしかないもの（必ず特定できるもの）には the をつけます。

- the sun （太陽）
- the earth （地球）
- the left （左）
- the west （西） 等

4 ～の人

the＋形容詞

「～ people」というかわりに、「the ～」という場合があります。

- young people = the young （若い人たち）
- old people = the old （年配の人たち）

4. 冠詞が不要な場合

名詞すべてに冠詞が必要ではなく、a や the がいない場合もあります。以下に例を挙げますので、全部覚えて下さい。

1 食事

食事を表す名詞には冠詞は不要です。

例文：

I ate lunch at the restaurant.

（私はレストランで昼食を食べました。）

2 交通手段

交通手段を表す場合には冠詞は不要です。

例文：

He will go there by taxi.

(彼はそこにタクシーで行く予定です。)

3 季節

季節を表す名詞には冠詞は不要です。

例文：

I like summer the best.

(私は夏が一番好きです。)

4 その場所ですることが目的の場合

建物や場所に冠詞があるのと無いのでは意味が違ってきます。

冠詞あり＝そこに行く

冠詞なし＝そこで何かをする

このように区別できます。下の例文を見て、その違いを理解して下さい。

例文：

[冠詞あり]

I go to the school.

(私は学校に行きます。)

※その場所に行く。

[冠詞なし]

I go to school.

(私は学校に行きます。)

※授業を受けに行く。

[冠詞あり]

She goes to the church.

(彼女は教会に行きます。)

※その場所に行く。

[冠詞なし]

She goes to church.

(彼女は教会に行きます。)

※お祈りに行く。

形容詞

1. 形容詞の用法

形容詞とは名詞を修飾したり補語になったりする語のことです。そして、形容詞には大きく分けて2つの用法があります。

1 限定用法

限定用法とは、名詞を修飾する用法のことです。限定用法で使われる場合、次の2つの形があります。

○ 形容詞＋名詞

この形は日本語と同じ語順なので、すんなり頭に入ってくるのではないのでしょうか。

例文：

This is a beautiful lake.

(これは美しい湖です。)

He has a small bag.

(彼は小さいかばんを持っています。)

They sell old books.

(彼らは古い本を売ります。)

○ 代名詞＋形容詞

この形は **-thing, -one, -body** などの代名詞で使われる形です。形容詞が日本語とは逆の位置にきますので、慣れるまで非常にややこしい用法です。それゆえ、テスト等では頻繁に出題されます。

例文：

I want something cold to drink.

(私は何か冷たいものが飲みたいです。)

We saw someone strange at the station.

(私は駅で誰か怪しい人を見ました。)

不定詞の形容詞的用法でも **-thing** を扱っています。ぜひ参考にして下さい。

2 叙述用法 (じょじゅつようほう)

叙述用法とは、補語になる用法のことです。名詞・代名詞・形容詞が補語になることができますが、形容詞が補語になる場合は、この叙述用法の時です。

補語 (C) が使われる文型は第3文型 (S + V + C) と第5文型 (S + V + O + C) の2つですが、この C に形容詞が使われます。

○ 第3文型 (S + V + C)

「S + V + C」の第3文型で形容詞が使われる形です。第3文型は「S = C」になるのが特徴ですが、この C に形容詞がきます。

例文：

That building is tall.

S V C

(あのビルは高いです。)

This book is interesting.

S V C

(この本はおもしろいです。)

これらは共に「S + V + C」の第3文型の文で、「C」に形容詞が使われて「S = C」になっています。

○ 第5文型 (S + V + O + C)

「S + V + O + C」の第5文型で形容詞が使われる形です。第5文型は「O = C」になるのが特徴ですが、この C に形容詞がきます。

例文：

He keeps the room warm.

S V O C

(彼は部屋を暖かいまま保っています。)

I found the book interesting.

S V O C

(その本は読んでみるとおもしろかった。)

これらは共に「S + V + O + C」の第5文型の文で、「C」に形容詞が使われて「O = C」になっています。また、この find を使う文は it を使う文に書き換えられます。詳しくは不定詞の構文をご覧ください。

2. 数量形容詞

数量形容詞とは、数や量を表す形容詞のことです。試験ではもちろん、日常生活でもよく使う表現なので、必ず覚えるようにして下さい。

1 many, a few

この2つの形容詞は可算名詞（数えられる名詞）につきます。直後の名詞は複数形にして下さい。

例文：

There are many pencils on the desk.

(机の上に多くの鉛筆があります。)

He has a few books.

(彼は2、3冊の本を持っています。)

2 much, a little

この2つの形容詞は不可算名詞（数えられない名詞）につきます。直後の名詞は単数形です。

例文：

She has much money.

(彼女はたくさんのお金を持っています。)

We had a little rain this summer.

(今年の夏は少しの雨しか降りませんでした。)

3 a lot of

この形容詞は可算名詞と不可算名詞の両方につきます。直後の名詞が可算名詞の場合は、名詞を複数形にして下さい。

例文：

I have a lot of friends.

(私はたくさんの友達があります。)

You have a lot of work.

(あなたはたくさんの仕事があります。)

Let's～の文

1. Let's～の英作文

Let's～の表現は中学校で習いますが、日常会話でもよく使われる重要な表現です。それほどややこしいルールはありませんので、比較的簡単に理解できると思います。

1 Let's + 動詞の原形＋～.

「～しましょう。」を表す文です。人を誘う場合によく使われます。

例文：

Let's go to the park.

(公園に行きましょう。)

2 Let's + not + 動詞の原形＋～.

「～しないでおきましょう。」を表す文です。相手の提案を軽く否定するときに使います。

例文：

Let's not go there.

(そこには行かないでおきましょう。)

2. Let's～の文の書き換え

Let's～の文は Shall we～?の文に書き換えることができます。Shall we の文に書き換える時は、? を忘れないで下さい。

Let's + 動詞の原形＋～.= Shall we + 動詞の原形＋～?

例文：

Let's play volleyball.

= Shall we play volleyball?

(バレーボールをしましょう。)

may

1. may とは？

may は助動詞で、「～してよい」「～かもしれない」の意味です。

2. may の英作文

1 肯定文

主語 + may + 述語（動詞の原形） + ．

まずは「～してよい」の意味の例文を紹介します。

例文： あなたは外出してもいいですよ。

⇒ まずは単語に

あなたは 外出しても いいですよ。

(You) (go out) (may).

⇒ これを 主語 + may + 述語 + ． に並べると、

You may go out. (完成)

ただ may のこの表現は、目上の人から目下の人に対する言い方ですので、使う場合は注意して下さい。

では次に、「～かもしれない」の例文を紹介します。

例文： 明日雨が降るかもしれません。

⇒ まずは単語に

明日 雨が降る

(tomorrow) (rain)

かもしれません。(天気の主語)

(may) (it).

⇒ これを 主語 + may + 述語 + ． に並べると、

It may rain tomorrow. (完成)

2 否定文

主語 + may not + 述語（動詞の原形） + ．

may の直後に not を置くだけです。「may not」の短縮形は「mayn't」ですが、ほとんど使いません。では「～してよい」の意味の否定文です。

例文： あなたは日本語を話してはいけません。

⇒ まずは単語に

あなたは 日本語で
（ You ） （ in Japanese ）
話しては いけません。
（ speak ） （ may not ）.

⇒ これを 主語 + may not + 述語 + ～. に並べると、
You may not speak in Japanese. (完成)

must にも禁止の意味がありましたが、must のほうがより強い禁止です。

では次に、「～かもしれない」の意味で否定文を作ります。

例文： 明日晴れにならないかもしれません。

⇒ まずは単語に

明日 晴れに
（ tomorrow ） （ fine ）
ならないかもしれません。（天気の主語）
（ may not be ） （ it ）.

⇒ これを 主語 + may not + 述語 + ～. に並べると、
It may not be fine tomorrow. (完成)

3 疑問文

May + I + 述語（動詞の原形） + ～？

この「May I ～?（～してもいいですか。）」は絶対に覚えて下さい。

例文：

May I use this pen?

(このペンを使っていいですか。)

次は答え方です。

「はい」の場合

O.K. Sure. Of course. など

「いいえ」の場合

I'm sorry you can't. など

ここで注意しなければならないのは、may を使って答える場合です。もし使うと、

答え方：

Yes, you may.

(うむ、よかろう。)

No, you may not.

(いいや、だめだ。)

少し極端ですがこのようなニュアンスになってしまいます。絶対の答えはありませんので、may を使った表現は避けて、思いついた表現で答えて下さい。

命令文

命令文の英作文

命令文は「～しなさい。」を表す文です。動詞から始まるのが特徴で、主語がなくなります。please や not を加えることで表現の幅を広げることができます。

1. 肯定の命令文

1 動詞の原形＋～.

これは「～しなさい。」を表す命令文です。主語を省いて動詞の原形で文を始めます。

例文：

[肯定文]

You read this book.

(あなたはこの本を読みます。)

[命令文]

Read this book.

(この本を読みなさい。)

[肯定文]

He studies English hard.

(彼は熱心に英語を勉強します。)

[命令文]

Study English hard.

(熱心に英語を勉強しなさい。)

※主語が 3 人称でも動詞は原形です。

[肯定文]

You are kind to everyone.

(あなたは誰にも親切です。)

[命令文]

Be kind to everyone.

(誰にも親切にしないで。)

※動詞が be 動詞の場合は Be を使います。

また、誰かに呼びかけて使う場合は、

- 文頭に名前 → 名前+,+命令文
- 文末に名前 → 命令文+,+名前

このようにコンマ (,) を名前の前後に補います。

例文：

Mike, stand up.

(マイク、立ちなさい。)

Stand up, Mike.

(立ちなさい、マイク。)

2 Please+命令文／命令文+, please

これは「～して下さい。」を表す丁寧な命令文です。命令文の文頭か文末に please を加えます。また please を文末に置く場合は、please の直前にコンマを加えて下さい。

- 文頭に please → Please+命令文
- 文末に please → 命令文+,please

例文：

[命令文]

Get out of here.

(ここから出て行きなさい。)

[丁寧な命令文]

Please get out of here.

Get out of her, please.

(ここから出て行って下さい。)

2. 否定の命令文

1 Don't + 命令文

これは「～するな。」を表す否定の命令文です。命令文の文頭に **Don't** を加えます。

例文：

[命令文]

Watch TV.

(テレビを見なさい。)

[否定の命令文]

Don't watch TV.

(テレビを見るな。)

2 Please+否定の命令文／否定の命令文+, please.

これは「～しないで下さい。」を表す丁寧な否定の命令文です。否定の命令文の文頭か文末に **please** を加えます。また **please** を文末に置く場合は、**please** の直前にコンマを加えて下さい。

- 文頭に **please** → **Please+否定の命令文**
- 文末に **please** → **否定の命令文+, please**

例文：

[否定の命令文]

Don't eat this banana.

(このバナナを食べるな。)

[丁寧な否定の命令文]

Please don't eat this banana.

(このバナナを食べないで下さい。)

以上が命令文です。基本は「動詞の原形+～」の文です。これに、**don't** がつくと否定の命令文、**please** がつくと丁寧な命令文になります。

名詞の複数形

1. 名詞の単数形と複数形

名詞には単数形と複数形の 2 つの形があります。

- 単数形 → 1 つ、1 人、1 個、1 冊 等
- 複数形 → 2 以上のもの

例文：

[単数形]

I have one book.

(私は本を一冊持っています)

[複数形]

I have two books.

(私は本を二冊持っています。)

このように、名詞の数によって名詞の形を変えなければなりません。

実際の複数形の変化は、規則変化と不規則変化があり、それぞれ覚えなければなりません。

2. 複数形の作り方

1 規則変化の作り方

規則変化には4つのルールがあります。すべて暗記して、正確に使えるようにして下さい。

1. たいていの名詞

原形に **s** をつけます。

book → books

pen → pens 等

例文：

I bought some books at the store.

(私は店で何冊かの本を買いました。)

2. s, ss, sh, ch, o, x で終わる名詞

原形に **es** をつけます。

bus → buses

watch → watches 等

例文：

He has ten watches.

(彼は10個の腕時計を持っています。)

3. <子音字+y>で終わる名詞

最後の y を i に変えて es をつけます。

study → studies

story → stories 等

例文：

We must finish these studies.

(我々はこれらの研究を終わらせなければなりません。)

4. f, fe で終わる名詞

最後の f, fe を v に変えて es をつけます。

leaf → leaves

knife → knives

wife → wives 等

例文：

They use some knives to make a carving.

(彼らは彫り物を作るのにいくつかのナイフを使います。)

2 不規則変化をする名詞

不規則変化をする名詞は、不規則動詞と同様に覚えるしかありません。

例文：

○ man → men (男性)

○ woman → women (女性)

○ child → children (子供)

○ foot → feet (足) 等

名詞を辞書で調べる場合は、意味だけではなくその複数形も一緒に調べるようにして下さい。

3 単数形と複数形が同じ名詞

出題されるのはある程度限られています。それほど数は多くありませんので、しっかりと覚えて下さい。

○ 群れで生活する生き物

例：

sheep (羊)

deer (鹿)

fish (魚) 等

○ -ese で終わる国民

例：

Japanese (日本人)

Chinese (中国人) 等

must

1. must とは？

must とは助動詞で「～しなければならない」の意味です。この意味で使われる場合は **must** を **have to** に書き換えることができます。また、「～にちがいない」の意味もあります。

2. must の英作文

1 肯定文

主語＋ **must** ＋述語（動詞の原形）＋～.

まずは「～しなければならない」の意味の例文を紹介します。

例文： 私は英語を話さなければならない。

⇒ まずは単語に

私は 英語を 話さ なければならない。

(I) (English) (speak) (must).

⇒ これを 主語＋ **must** ＋述語＋～. に並べると、

I must speak English. (完成)

主語が3人称単数でも **must** ＋動詞の原形です。

例文： 彼女はバレーボールを練習しなければならない。

⇒ まずは単語に

彼女は バレーボールを

(She) (volleyball)

練習し なければならない。

(practice) (must).

⇒ これを 主語 + must + 述語 + ～. に並べると、
She must practice volleyball. (完成)

では次は、「～にちがいない」の意味で英作します。

例文： 私は病気にちがいない。

⇒ まずは単語に
私は 病気に ちがいない。
(I) (sick) (must be).

⇒ これを 主語 + must + 述語 + ～. に並べると、
I must be sick. (完成)

これで OK です。「～しなければならない」「～にちがいない」のどちらの意味で使う場合も、must の位置や英作文の作り方は同じです。

2 否定文

主語 + must not + 述語 (動詞の原形) + ～.

must の直後に not を置くだけです。まずは「～しなければならない」の意味の否定文を紹介します。

must not の意味は「～してはいけない」となり強い禁止を表します。これは命令文と同じ意味になります。ちなみに、must not の短縮形はありません。

例文： 君はテレビゲームをしてはいけません。

⇒ まずは単語に
君は テレビゲームを しては いけません。
(You) (video games) (play) (must not).

⇒ これを 主語 + **must not** + 述語 + ． に並べると、
You **must not** play video games. (完成)
(= Don't play video games.)

このようになります。

なお「～にちがいない」の意味で使う場合は、同じ意味をもつ **can not** をよく使います。詳しくは **can** のページをご覧ください。

3 疑問文

Must + 主語 + 述語 (動詞の原形) + ～ ?

Must を文頭に持っていきただけで疑問文が完成します。「～にちがいない」の意味での疑問文はあまり使いませんので省略します。

例文：

I **must** get up at five tomorrow morning.
(私は明日 5 時に起きなければなりません。)

この文を疑問文にします。 **must** を文頭に持っていきだけです。

⇒ **Must** I get up at five tomorrow morning?
(私は明日 5 時に起きなければなりませんか。)

次は答え方です。

「はい」の場合

Yes, + 主語 + **must**.

「いいえ」の場合

No, + 主語 + **don't have to**.

ここで注意しなければならないのは、「いいえ」の場合の答え方です。

「～しなければなりませんか」の「いいえ」の返事なので、「いいえ、する必要はありません」と答えるべきです。

もしここで、

No, you must not.

(いいえ、あなたは起きてはいけません。)

このように答えてしまうと、へんてこになってしまいます。ですから no の場合は、**don't have to** を使って答えるようにして下さい。では上の例文の疑問文に答えてみます。

答え方：

Yes, you must.

(はい、起きなければなりません。)

No, you don't have to.

(いいえ、起きる必要はありません。)

このように答えて下さい。

must はよく出題されます。特にこの **don't have to** で答えるパターンの問題が多いです。試験ではひっかからないようにして下さい。

3. must の書き換え

○ must = have to

must は **have to** に書き換えることができます。この **have** は一般動詞なので、疑問文にする場合は **do** を使って英作すれば OK です。

例文：

He must drive a car.

= He has to drive a car.

(彼は車を運転しなければなりません。)

Must he drive a car?

= Does he have to drive a car?

(彼は車を運転しなければなりませんか。)

また **can** でも触れていますが、「助動詞＋助動詞」を避ける場合も **have to** は有効的です。

例文：

○ You will have to study hard.

× You will must study hard.

(あなたは一生懸命勉強しなければならなくなるでしょう。)

この書き換えの注意点は、否定文は **have to** の文に書き換えられないことです。なぜなら、2.3 の解説にもありますが、

must not = ～してはいけない

don't have to = ～する必要はない

このように意味が違うからです。例文を紹介します。

例文：

They must not go out.

(彼らは外出してはならない。)

≠ **They don't have to go out.**

(彼らは外出する必要はない。)

must not と **don't have to** の違いを理解して下さい。

人称代名詞

1. 人称代名詞とは？

人称代名詞とは、人称ごとに区別された代名詞のことです。英語学習において、次の表を暗記しなければなりません。

		単数			
		主格	所有格	目的格	所有代名詞
1 人称	私	I	my	me	mine
2 人称	あなた	you	your	you	yours
3 人称	彼	he	his	him	his
	彼女	she	her	her	hers
	それ	it	its	it	-
他名詞		Mike	Mike's	Mike	Mike's

		複数			
		主格	所有格	目的格	所有代名詞
1 人称	私達	we	our	us	ours
2 人称	あなた達	you	your	you	yours
3 人称	彼ら	they	their	them	theirs
	彼女ら				
	それら				

これは、教科書・参考書・文法書等、すべての英語関連書に掲載されているだろうものです。覚えないとまったく英語がわかりません。リズムをつけて覚えると楽です。

2. 格について

1. 主格

主格とは、日本語で「～が、～は」を意味するときに使う格です。主語として使われます。

2. 所有格

所有格とは、日本語で「～の」を意味するときに使う格です。所有（誰のもの）をはっきりさせるときに使います。

3. 目的格

目的格とは、日本語で「～を、～に」を意味するときに使う格です。目的語として使われます。

格の覚え方として、まずは「は・が・の・を・に」この言葉を覚えて下さい。これはそれぞれの格につく日本語の助詞を表しています。

主 格 → ～が、～は

所有格 → ～の

目的格 → ～を、～に

「は・が・の・を・に」さえ覚えていれば、格の判別は楽になります。例えば次の文を見て下さい。

例文：

「彼女は私に、私の誕生日に自転車をくれた。」

この文に人称代名詞が3つ（彼女は、私に、私の）あります。こういった文を英作する場合、上の「は・が・の・を・に」を覚えていると、次のようにすぐに判別できます。

彼女は → ～は → 主格 → she

私に → ～に → 目的格 → me

私の → ～の → 所有格 → my

このようになり、どの格を使えばいいのかがわかります。

3. 人称について

1 1人称

1人称は「自分」のことです。「俺」や「僕」も1人称です。英語で使う場合は、上の表から判断して、

○ 「私は、私が」の場合 → I

○ 「私の」の場合 → my

○ 「私を、私に」の場合 → me

このように使い分けて下さい。では例文です。

例文：

[主格]

I watch TV.

(私はテレビをみます。)

[所有格]

He has lost my watch.

(彼は私の時計をなくしました。)

[目的格]

She gave me a book.

(彼女は私に本をくれました。)

2 2人称

2人称は「あなた」のことです。「君」や「おまえ」も2人称です。英語で使う場合は、上の表から判断して、

- 「あなたは、あなたが」の場合 → **you**
- 「あなたの」の場合 → **your**
- 「あなたを、あなたに」の場合 → **you**

このように使い分けて下さい。2人称は主格と目的格が同じです。注意して下さい。では例文です。

例文：

[主格]

You sing songs.

(あなたは歌を歌います。)

[所有格]

I want your bag.

(私はあなたのカバンが欲しいです。)

[目的格]

She bought a notebook for you.

(彼女はあなたにノートを買いました。)

3 3人称

3人称は「私」と「あなた」以外のことです。英語で使う場合は、上の表から判断して、

[彼（男性）の場合]

- 「彼は、彼が」の場合 → he
- 「彼の」の場合 → his
- 「彼を、彼に」の場合 → him

例文：

[主格]

He can play tennis very well.

(彼はとてもじょうずにテニスをすることができます。)

[所有格]

I don't know his name.

(私は彼の名前を知りません。)

[目的格]

I said "Hi" to her.

(私は彼女に「やあ」と言いました。)

[彼女（女性）の場合]

- 「彼女は、彼女が」の場合 → she
- 「彼女の」の場合 → her
- 「彼女を、彼女に」の場合 → her

「彼女（女性）」の場合は所有格と目的格が同じです。注意して下さい。

例文：

[主格]

She likes sports.

（彼女はスポーツが好きです。）

[所有格]

I'm using her textbook.

（私は彼女の教科書を使っています。）

[目的格]

I will pick her up at six.

（私は彼女を6時に迎えに行きます。）

[それ（物）の場合]

- 「それは、それが」の場合 → it
- 「そのの」の場合 → its
- 「それを、それに」の場合 → it

「それ（物）」の場合は主格と目的格が同じです。注意して下さい。

例文：

[主格]

It is very interesting.

(それはとても興味深い。)

[所有格]

I like its taste.

(私はその味が好きだ。)

[目的格]

My sister has broken it.

(私の妹がそれを壊しました。)

4. 代名詞以外の名詞の格について

「父」や「妹」などの名詞、そして固有名詞でも格を区別しなければなりません。あまり意識することなく自然に区別できている方が多いですが、慣れていないうちは注意して下さい。

作り方は簡単で、所有格と所有代名詞にだけ **'s** をつければ **OK** です。例えば、

[父の場合]

- 父は、父が → **father**
- 父の → **father's**
- 父を、父に → **father**
- 父のもの → **father's**

[ジョンの場合]

- ジョンは、ジョンが → **John**
- ジョンの → **John's**
- ジョンを、ジョンに → **John**
- ジョンのもの → **John's**

このように使い分ける必要があります。

[s で終わる複数名詞の所有格について]

-s で終わる複数名詞の所有格は、「'」 をつけるだけで OK です。

例文：

My brother is a student at the boys' school.

(私の弟は男子校の生徒です。)

このようになります。

ローマ字

1. ローマ字の種類

この項目では、ヘボン式・日本式・訓令式の三種類を紹介します。ローマ字は英語学習で役立つ場合がありますので、しっかりと覚えて下さい。

1. ヘボン式

1867年に最初の和英・英和辞典（『和英語林集成』第一版）を完成させたジェームズ・カーティス・ヘボン（James Cutris Hepburn）が創始したローマ字です。

英語の書き方に近く、駅などの看板に使われているローマ字はほとんどがヘボン式です。

2. 日本式

1885年に田中館愛橘（たなかだて あいきつ）が日本語の発音を元に考案したローマ字です。

「し = si」「ち = ti」のように、五十音の直音（拗音[ゃ,ゅ,ょ]や促音[っ]以外）を、ローマ字の2字以内で表すのが特徴です。

3. 訓令式

1937年に内閣訓令第3号として発表されたものです。

ヘボン式と日本式が混ざっており、調査会式・国定式と呼ばれることもあります。

2. ローマ字表

1 ヘボン式ローマ字

	あ	い	う	え	お	拗音		
あ	a	i	u	e	o			
か	ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyu	kyo
さ	sa	shi	su	se	so	sha	shu	sho
た	ta	chi	tsu	te	to	cha	chu	cho
な	na	ni	nu	ne	no	nya	nyu	nyo
は	ha	hi	fu	he	ho	hya	hyu	hyo
ま	ma	mi	mu	me	mo	mya	myu	myo
や	ya		yu		yo			
ら	ra	ri	ru	re	ro	rya	ryu	ryo
わ	wa							
ん	n							

が	ga	gi	gu	ge	go	gya	gyu	gyo
ざ	za	ji	zu	ze	zo	ja	ju	jo
だ	da	ji	zu	de	do	ja	ju	jo
ば	ba	bi	bu	be	bo	bya	byu	byo
ぱ	pa	pi	pu	pe	po	pya	pyu	pyo

2 訓令式ローマ字

	あ	い	う	え	お	拗音		
あ	a	i	u	e	o			
か	ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyu	kyo
さ	sa	si	su	se	so	sya	syu	syo
た	ta	ti	tu	te	to	tya	tyu	tyo
な	na	ni	nu	ne	no	nya	nyu	nyo
は	ha	hi	hu	he	ho	hya	hyu	hyo
ま	ma	mi	mu	me	mo	mya	myu	myo
や	ya		yu		yo			
ら	ra	ri	ru	re	ro	rya	ryu	ryo
わ	wa							
ん	n							
が	ga	gi	gu	ge	go	gya	gyu	gyo
ざ	za	zi	zu	ze	zo	zya	zyu	zyo
だ	da	zi	zu	de	do	zya	zyu	zyo
ば	ba	bi	bu	be	bo	bya	byu	byo
ぱ	pa	pi	pu	pe	po	pya	pyu	pyo

※赤字はヘボン式と表記が異なる文字です。

3. 注意事項

1. 「ん」について

「ん (n)」は、次の文字が **b,m,p** の場合は **m** で表すことがあります。

例

- 難波 (namba)
- 辺見 (hemmi)
- 散歩 (sampo)

2. 「っ」について

促音の「っ」は、次の文字を重ねて表します。

例

- 復活 (fukkatsu)
- 札幌 (sapporo)
- 切手 (kitte)

ただし、「chi」「cha」「chu」「cho」に続く場合に、**c** を重ねずに **t** をつける場合があります。

例

- 一致 (itchi)
- 一着 (itchaku)

接続詞 1

1. 接続詞基礎

ここでは基礎の接続詞を紹介します。基本的に、全て中学校で習うものです。

1 and

意味： 「～と…、～そして…」

例文：

You and I are students.

(あなたと私は生徒です。)

これが一番基本的な使い方です。

[3つ以上つなぐ場合]

3つ以上つなぐ場合は、「A, B, C and D」のように、最後の語の直前だけに and を置いて他はコンマでつなぎます。

例文：

I want pens, notebooks, textbooks and glasses.

(私は、ペンとノートとテキストとメガネが欲しいです。)

[代名詞をつなぐ場合]

代名詞をつなぐ場合は、「2人称＞3人称＞1人称」の順番にします。

例文：

You, he and I are good friends.

(あなたと彼、そして私は良い友達です。)

[句や節をつなぐ場合]

句や節をつなぐ場合のルールは特にありません。句や節にも使えることを覚えておいて下さい。

例文：

[句]

He has lived in Hokkaido and in Okinawa.

(彼は北海道と沖縄に住んだことがあります。)

[節]

I found a wallet and I reported it to the police.

(私は財布を見つけた、そしてそれを警察に届けた。)

2 or

意味： 「～か…、～それとも…」

例文：

Mike or John will be elected chairperson.

(トムかジョンが議長に選ばれるでしょう。)

これが一番基本的な使い方です。

[「A or B」が主語の場合]

「A or B」が主語の文では、B に動詞を合わせます。

例文：

You or I am wrong.

(君か僕のどちらかが間違っている。)

3 but

意味： 「～しかし…、～でも…」

逆接の接続詞です。

例文：

He is very rich, but he is not happy.

(彼は大金持ちです、しかし幸せではありません。)

4 so

意味： 「だから、それで」

結果を表します。so の直前にコンマを置いてください。

例文：

She had a fever, so she was absent from school.

(彼女は熱をだしました、だから学校をやすみました。)

2. 接続詞標準

ここでは1の接続詞を使う構文を紹介します。一部高校で習うものも含まれています。

1 命令文,+and ～

意味： 「…しなさい、そうすれば～」

and の後には良い内容が続きます。

例文：

Study hard, and you will pass the entrance exam.

(熱心に勉強しなさい、そうすれば入試に合格します。)

2 命令文,+or ～

意味： 「…しなさい、さもないと～」

or の後には悪い内容が続きます。

例文：

Study hard, or you will fail the entrance exam.

(熱心に勉強しなさい、さもないと入試に失敗します。)

3 not A but B

意味： 「A でなく B」

非常に使いやすく便利な表現です。

例文：

That animal is not a giraffe but a panda.

(あの動物はキリンではなくパンダです。)

4 not only A but (also) B

意味： 「A だけでなく B も」

also は省略可能です。

例文：

He can speak not only Chinese but Japanese.

(彼は中国語だけでなく日本語も話せます。)

○ 「not only A but (also) B」が主語の場合

「not only A but (also) B」が主語の文では、B に動詞を合わせます。

例文：

Not only you but I am to blame.

(あなただけでなく私も悪い。)

5 both A and B

意味： 「A も B も」

とても便利な表現です。

例文：

He loves both Junko and Sachiko.

(彼はジュンコもサチコも愛しています。)

なかなか罪な彼です。

○ 「both A and B」が主語の場合

「both A and B」が主語の文では、主語を複数形扱いにします。

例文：

Both you and she are college students.

(あなたも彼女も大学生です。)

6 neither A nor B

意味： 「A も B も～ない」

「neither A nor B」に否定の意味が含まれていますので、not が無くても否定の意味です。

例文：

I can neither write nor speak French.

(私はフランス語を書けないし話せない。)

○ 「neither A nor B」が主語の場合

「neither A nor B」が主語の文では、動詞は原則として B に合わせます。ただし、まとめて複数形にすることもあります。

例文：

Neither you nor I am healthy.

(あなたも私も健康ではありません。)

7 either A or B

意味： 「A か B のどちらか」

あまりみませんが、忘れた頃に出てきます。

例文：

You can keep either this book or that one.

(この本かあの本のどちらかをあげるよ。)

○ 「either A or B」が主語の場合

「either A or B」が主語の文では、動詞は原則として B に合わせます。

例文：

Either you or he has the CD.

(あなたか彼のどちらかがその CD を持っているよ。)

3. 接続詞応用

ここでは、高校入試で必ず出題されるものを紹介します。

1 When ～, …

意味： 「～の時…」

よく出ます。コンマを忘れないで下さい。

例文：

When I was a child, I often played menko.

(私が子供の時、しばしばめんこで遊びました。)

「めんこ」って知っていますか？牛乳などのビンのふたのことです。私の地方では「べったん」と呼びました。

○ … when ～

when は文頭と文中のどちらでも使えます。ただし、文中で使う場合はコンマがいりません。

また、when の位置を入れ換える場合は、文の前後も入れ換えてください。

When ～, ….

= … when ～.

例文：

When I was a child, I often played menko.

= I often played menko when I was a child.

(私が子供の時、しばしばめんこで遊びました。)

○ when 節の時制

when 節の時制は、未来のことでも現在形で表します。

例文：

When he comes, I will give him this present.

= I will give him this present when he comes.

(彼が来たらこのプレゼントを彼に渡します。)

2 If ～, …

意味： 「もし～なら…」

コンマを忘れないで下さい。また **when** と同様に、**if** 節の時制は、未来のことでも現在形で表します。

例文：

If it rains tomorrow, I will not go there.

(もし明日が雨なら、私はそこに行きません。)

3 … because ～

意味： 「…なぜなら～」

because は **why** のページでも少し触れています。是非ご覧下さい。

例文：

I was late for school because I couldn't catch the train.

(私は電車に乗れなかったので学校に遅刻しました。)

○ Because ～, …

because は文頭と文中のどちらでも使えます。ただし、文中で使う場合はコンマがありません。

また、**because** の位置を入れ換える場合は、文の前後も入れ換えてください。

… because ～.

= Because ～, ….

例文：

I was late for school because I couldn't catch the train.

= Because I couldn't catch the train, I was late for school.

(私は電車に乗れなかったので学校に遅刻しました。)

4 … as soon as ～

意味： 「～するとすぐに…」

3語が合体して接続詞の働きをします。動名詞の構文にある、**On ～ing** と同じ意味です。

例文：

I kept to the toilet as soon as I arrived at school.

(私は学校に着くとすぐにトイレに閉じこもった。)

○ As soon as ～, …

as soon as は文頭と文中のどちらでも使えます。ただし、文中で使う場合はコンマが
いりません。

また、as soon as の位置を入れ換える場合は、文の前後も入れ換えてください。

… as soon as ～.

= As soon as ～, ….

例文：

I kept to the toilet as soon as I arrived at school.

= As soon as I arrived at school, I kept to the toilet.

(私は学校に着くとすぐにトイレに閉じこもった。)

5 so ～ that …

意味： 「とても～なので…」

非常に重要です。必ず覚えて下さい。

例文：

I was so hungry that I ate grass.

(私はとてもお腹が空いたので草を食べた。)

決してマネをしないで下さい。

○ so ～ that + 主語 + can…

「so ～ that …」に can が加わった形です。とてもよく出題されます。

例文：

He feels so bad that he cannot take part in the game.

(彼はとても気分が悪いので、試合に出場できない。)

○ too ～ to

「so ～ that＋主語＋can…」の文は、「too ～ to」の文に書き換えることができます。

例文：

He feels so bad that he cannot take part in the game.

= He feels too bad to take part in the game.

(彼はとても気分が悪いので、試合に出場できない。)

指示代名詞

1. 指示代名詞とは？

指示代名詞とは、前にでた事柄をさす代名詞のことです。

「指示代名詞」と聞くと難しいと感じるかもしれませんが、中学1年の最初にならう文である、

This is a pen.

(これはペンです。)

この文の「**This** (これは)」が指示代名詞です。**this** 以外には、

- **these** (それら)
- **that** (あれ)
- **those** (あれら)

2. 指示代名詞の用法

1 代名詞として使う

これは単純な使い方です。主語や目的語になります。

例文：

[主語]

Those are very useful.

(あれらはとても役立ちます。)

[目的語]

I will give you this.

(私はこれをあなたにあげましょう。)

2 形容詞として使う

指示代名詞は、形容詞として使われることも多々あります。使い方は、「指示代名詞＋名詞」の形にすれば OK です。

単数形、複数形の両方で使えますが、複数形の場合は名詞を複数形にすることを忘れないで下さい。

例文：

[単数形]

This pen is very expensive.

(このペンはとても高価です。)

That pen is very expensive.

(あのペンはとても高価です。)

[複数形]

These pens are very expensive.

(これらのペンはとても高価です。)

Those pens are very expensive.

(あれらのペンはとても高価です。)

数詞

1. 数詞とは？

数詞とは、数を表す基数詞と、順序を表す序数詞のことです。

テストではもちろんのこと、すべての状況において出てきます。日本語においても、テレビ・ニュース・買い物・学校 etc、数字が出てこない日はないくらいです。絶対に覚えて下さい。

2. 基数詞の用法

基数詞とは、「1, 2, 3…」や「1個、2個、3個…」などの数を表すときに使う語です。

1 数字

[基礎となる数字]

1～1000まで覚えると、そのあとは応用で1億くらいまではすんわり頭に入ります。これはもう、暗記以外にありません。

まずは、1～20と100までの10区切りの数、そして1000を紹介します。

1	…	one
2	…	two
3	…	three
4	…	four
5	…	five
6	…	six
7	…	seven
8	…	eight
9	…	nine
10	…	ten

1 1 ... eleven
1 2 ... twelve
1 3 ... thirteen
1 4 ... fourteen
1 5 ... fifteen
1 6 ... sixteen
1 7 ... seventeen
1 8 ... eighteen
1 9 ... nineteen
2 0 ... twenty
3 0 ... thirty
4 0 ... forty
5 0 ... fifty
6 0 ... sixty
7 0 ... seventy
8 0 ... eighty
9 0 ... ninety
1 0 0 ... hundred
1 0 0 0 ... thousand

これが基本となりますので、必ず暗記して下さい。また、イギリス英語とアメリカ英語で多少の違いがありますが、もっと大きな単位もあります。

1 0 0 0 0 0 0 ... million
1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ... billion
1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ... trillion

日常生活でこれだけ大きい単位を使うことはあまりありません。

[二桁の数字]

上で紹介した以外の二桁の数字の表し方です。十の単位の数と一の単位の数ハイフン（・）でつないで表します。例えば「21」だと次のように表します。

$$21 = 20 + 1$$

$$20 = \text{twenty}$$

$$1 = \text{one}$$

$$21 = \text{twenty-one}$$

このハイフンを忘れてしまう方が非常に多いので注意して下さい。では、他の数字の例です。要領さえつかめばすぐにできると思います。

$$22 \cdots \text{twenty-two}$$

$$34 \cdots \text{thirty-four}$$

$$88 \cdots \text{eighty-eight}$$

[三桁の数字]

100以外の三桁の数字の表し方です。100がいくつあるのかを表します。例えば「200」だと次のように表します。

$$200 = 100 \text{ が } 2 \text{ つ } = \text{two hundred}$$

これでOKです。この要領で、300や400も表せます。

$$300 = 100 \text{ が } 3 \text{ つ } = \text{three hundred}$$

$$400 = 100 \text{ が } 4 \text{ つ } = \text{four hundred}$$

そしてこの三桁の表し方と二桁の表し方をくっつけることで、複雑な三桁の数字を表すことが出来ます。

$$143 = 100 + 40 + 3$$

$$143 = \text{one hundred (and) forty-three}$$

この hundred 直後の and は省略可能です。基礎となる数字を覚えていれば表せますので、表し方と共に基礎の数字を覚えて下さい。では、他の数字を紹介します。

4 2 8 ... four hundred (and) twenty-eight

7 1 2 ... seven hundred (and) twelve

9 0 1 ... nine hundred (and) one

[四桁の数字]

1 0 0 0 以外の四桁の数字の表し方です。1 0 0 0 がいくつあるのかを表します。例えば「2 0 0 0」だと次のように表します。

0 0 = 1 0 0 0 が 2 つ two thousand

これで OK です。この要領で、3 0 0 0 や 4 0 0 0 も表せます。

3 0 0 0 = 1 0 0 0 が 3 つ = three thousand

4 0 0 0 = 1 0 0 0 が 4 つ = four thousand

そしてこの四桁の表し方と三桁・二桁の表し方をくっつけることで、複雑な数字を表すことが出来ます。

9 2 6 5 = 9 0 0 0 + 2 0 0 + 6 0 + 5

9 2 6 5 = nine thousand two hundred (and) sixty-five

この hundred 直後の and は省略可能です。基礎となる数字を覚えていれば表せますので、表し方と共に基礎の数字を覚えて下さい。では、他の数字を紹介します。

1 0 0 1 ... one thousand (and) one

2 5 0 0 ... two thousand five hundred

5 0 1 3 ... five thousand (and) thirteen

[五桁以上の数字]

1 0 0 0 0 以上の数字の表し方です。1 0 0 0 がいくつあるのかを表します。例えば「1 0 0 0 0」だと次のように表します。

$$1\ 0\ 0\ 0\ 0 = 1\ 0\ 0\ 0 \text{ が } 1\ 0\ \text{こ} = \text{ten thousand}$$

これで OK です。1 0 0 0 0 0 だと次になります。

$$1\ 0\ 0\ 0\ 0\ 0 = 1\ 0\ 0\ 0 \text{ が } 1\ 0\ 0\ \text{こ} = \text{one hundred thousand}$$

そして上記で解説している数字の表し方を組み合わせることで、複雑な数字を表すことが出来ます。

$$4\ 6\ 2\ 2\ 9\ 2 = 1\ 0\ 0\ 0 \text{ が } 4\ 6\ 2\ \text{こ} + 2\ 9\ 2$$

$$4\ 6\ 2\ 2\ 9\ 2 = \text{four hundred sixty-two thousand two hundred ninety-two}$$

このように、二桁～四桁の数字の表し方を組み合わせることで大きな数字を表すことができます。

ちなみに、1 0 0 0 0 0 0 (百万) になると、million を使って表します。下の 5 で紹介しています。

2 年号

年号は、基本的に最初と最後の二桁ずつに区切って読みます。

例：

$$1\ 9\ 9\ 5 \text{ 年} = 1\ 9 + 9\ 5 = \text{nineteen ninety-five}$$

$$2\ 0\ 0\ 0 \text{ 年} = 2\ 0\ 0\ 0 \text{ で OK} = \text{two thousand}$$

$$2\ 0\ 0\ 9 \text{ 年} = 2\ 0\ 0\ 0 + 9 = \text{two thousand nine}$$

3 日付

what のページでも少し触れていますが、日付は基数詞・序数詞のどちらでも OK です。

例：

3 月 6 日 = March six (sixth)

8 月 1 2 日 = August twelve (twelfth)

1 1 月 2 8 日 = November twenty-eight (twenty-eighth)

4 電話番号

電話番号は、1 つずつ数字を読みます。ただし、0 (zero) は ou (アルファベットの O と同じ発音) と読むときがあります。

例： 1 2 4 1 - 0 0 9 2

one two four one ou ou nine two

5 大きい数字

大きい数字は、1 0 0 ずつ区切って、それぞれの単位に合わせて読みます。

6 7 8, 5 5 3, 9 1 2 のように、大きな数字をコンマで区切っているのを見たことがありますか。実は、このコンマが大きなカギを握っています。このコンマは英語の単位にピッタリ合っているのです。

例： 6 7 8, 5 5 3, 9 1 2

6	7	8	,	5	5	3	,	9	1	2
million				thousand				一		

上記のように区分します。これは、

million = 6 7 8 こ

thousand = 5 5 3 こ

そして 9 1 2

があることを意味します。よって次の表記になります。

six hundred (and) seventy-eight million, five hundred (and) fifty-three thousand, nine hundred (and) twelve

それにしても長いです。

6 小数

小数は、小数点までは普通に、小数点は point、小数点以下は 1 つずつ読みます。

例： 1 4 2 2 . 9 3 8

one thousand four hundred (and) twenty-two point nine three eight

7 分数

分数は、分子は基数詞、分母は序数詞。そして分子が 2 以上の時は、分母の序数詞は複数形で読みます。

例：

3 分の 1 = one third

7 分の 2 = two sevenths

5 と 9 分の 4 = five and four ninths

また、2 分の 1 と 4 分の 1 には特別な言い方があるので覚えて下さい。

2 分の 1 = one half

4 分の 1 = two quarter

3. 序数詞の用法

序数詞とは、「第1、第2、第3…」や「1番、2番、3番…」などを表すときに使う語です。

序数詞の基本は、基数詞に **-th** をつけます。ただいくつか例外もあるので、これも数基詞同様に覚えるしかありません。

[基礎となる序数詞]

では、1～20と100までの10区切りの数、そして1000を紹介します。

第1の	…	first
第2の	…	second
第3の	…	third
第4の	…	fourth
第5の	…	fifth
第6の	…	sixth
第7の	…	seventh
第8の	…	eighth
第9の	…	ninth
第10の	…	tenth
第11の	…	eleventh
第12の	…	twelfth
第13の	…	thirteenth
第14の	…	fourteenth
第15の	…	fifteenth
第16の	…	sixteenth
第17の	…	seventeenth
第18の	…	eighteenth
第19の	…	nineteenth
第20の	…	twentieth
第30の	…	thirtieth
第40の	…	fortieth

第 5 0 の … fiftieth
 第 6 0 の … sixtieth
 第 7 0 の … seventieth
 第 8 0 の … eightieth
 第 9 0 の … ninetieth
 第 1 0 0 の … hundredth
 第 1 0 0 0 の … thousandth

これが基本となりますので、必ず暗記して下さい。

また、もっと大きな単位では次のようになります。

第 1 0 0 0 0 0 0 の … millionth
 第 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 の … billionth
 第 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 の … trillionth

[二桁以上の序数詞]

二桁以上の数字の序数詞は、基本は数詞と同じ表し方で、最後の数字だけを序数詞にすれば OK です。

例：

2 1 =twenty-one

第 2 1 の =twenty-first

8 8 =eighty-eight

第 8 8 の =eighty-eighth

1 4 3 =one hundred (and) forty-three

第 1 4 3 の =one hundred (and) forty-third

9 2 1 1 =nine thousand two hundred (and) eleven

第 9 2 1 1 の =nine thousand two hundred (and) eleventh

21 = twenty-one

第21の = twenty-first

このようになります。

[テストでよく出る序数詞]

テストで必ずといっていいほど出題される序数詞を紹介します。特に注意して覚えて下さい。

- fifth ... ve を f に変えて th
- twelfth ... ve を f に変えて th
- eighth ... h だけをつければ OK
- ninth ... nineth としてしまいがち

これら4つは、出題頻度が非常に高いものです。正しい形で覚えるようにして下さい。

What の文

1. what とは？

what とは、「何」を表す単語です。**be** 動詞や一般動詞を伴うことが多く、また、決まった言い方も多くあります。ここでは決まった言い方を中心に解説します。

2. what の英作文

1 時間の尋ね方（基礎編）

○ What time is it (now)?

意味： 「今何時ですか。」

これは本当によく出題されます。完全な文で暗記して下さい。また、疑問文ですが下げ調子で読むことにも注意して下さい。

この文とセットに答え方も覚えて下さい。

○ It is + 数字 + (o'clock).

これは「〇時ちょうど」の時に使う表現です。最後の **o'clock** は省略できます。

例文：

[疑問文]

What time is it now?

(今何時ですか。)

[答え]

It is eight (o'clock).

(8時です。)

○ It is + 時 + 分.

これは「〇時×分」の時に使う表現です。「～時ちょうど」で使う表現と違い、最後に **o'clock** はいりません。

例文：

[疑問文]

What time is it now?

(今何時ですか。)

[答え]

It is two thirty.

(2時30分です。)

ここで注意することは、時間が何十何分になったときです。数詞の項目でも説明していますが、「何十一何分」というように、ハイフンを忘れないで下さい。

例文：

[疑問文]

What time is it now?

(今何時ですか。)

[答え]

It is one forty-five.

(1時45分です。)

○ It is noon.

これは「12時ちょうど」の時に使う表現です。

例文：

[疑問文]

What time is it now?

(今何時ですか。)

[答え]

It is noon.

(昼の12時です。)

○ in the morning と in the afternoon

これは「午前」(in the morning)と「午後」(in the afternoon)を表す時に使う表現です。「午前」を a.m. 「午後」を p.m. としても表すことができます。

例文：

[疑問文]

What time is it now?

(今何時ですか。)

[答え]

It is seven in the morning.

= It is seven a.m.

(午前7時です。)

[疑問文]

What time is it now?

(今何時ですか。)

[答え]

It is seven in the afternoon.

= It is seven p.m.

(午後7時です。)

2 曜日の尋ね方

What day is (it) today?

What day of the week is (it) today?

意味： 「今日は何曜日ですか。」

どちらの文を使っても OK です。それぞれ it は省略可能です。week は「週」という意味なので、想像つきやすいと思います。

次は答え方です。答え方も2つの言い方があります。

- It is +曜日.
- Today is +曜日.

これのどちらで答えてもOKです。

例文：

[疑問文]

What day is (it) today?

(今日は何曜日ですか。)

[答え]

It is Wednesday.

(水曜日です。)

[疑問文]

What day of the week is (it) today?

(今日は何曜日ですか。)

[答え]

Today is Saturday.

(土曜日です。)

この曜日の言い方で皆さんがよく間違えるのは、「曜日の最初を大文字にしていない。」ことと、「曜日を覚えていない。」ことです。曜日の最初を大文字にすることはもちろん、日曜日～土曜日まで覚えるようにして下さい。

- 日曜日 … Sunday
- 月曜日 … Monday
- 火曜日 … Tuesday
- 水曜日 … Wednesday
- 木曜日 … Thursday
- 金曜日 … Friday
- 土曜日 … Saturday

3 日付の尋ね方

What is the date today?

What day of the month is (it) today?

意味： 「今日は何月何日ですか。」

どちらの文を使っても OK です。それぞれ it は省略可能です。month は「月」という意味なので、想像つきやすいと思います。

○ It is +月+日.

答え方の注意点は数字です。ただ単に数字で書き表しても構いませんが、アルファベットで表記する場合はスペルに注意して下さい。その場合は、基数詞と序数詞のどちらで表しても構いません。

例文：

[疑問文]

What is the date today?

= What day of the month is (it) today?

(今日は何曜日ですか。)

[答え]

It is 16.

= It is January sixteen.

= It is January sixteenth.

(水曜日です。)

この曜日の言い方で皆さんがよく間違えるのは、「月の最初を大文字にしていない。」ことと、「月を覚えていない。」ことです。月の最初を大文字にすることはもちろん、1月～12月まで覚えるようにして下さい。

- 1月 … January
- 2月 … February
- 3月 … March
- 4月 … April
- 5月 … May
- 6月 … June
- 7月 … July
- 8月 … August
- 9月 … September
- 10月 … October
- 11月 … November
- 12月 … December

4 時間の尋ね方（応用編）

What time + 疑問文

意味： 「何時に～します（しました）か。」

ここでは、様々な場面で使える疑問文を紹介します。一般動詞現在形や一般動詞過去形の疑問文に「What time」をつけると、英語表現の幅がいつそう広がります。

例文：

What time do you go to school?

[What time + 疑問文]

（あなたは何時に学校に行きますか。）

What time did you get up this morning?

[What time + 疑問文]

（あなたは今朝何時に起きましたか。）

これらは日常でもよく使われる表現です。次は答え方です。

○ 主語＋述語＋at＋時間.

意味：「～時に…します。」

これは「時間がはっきりわかっている時」に使う表現です。

例文：

[疑問文]

What time do you go to school?

(あなたは何時に学校に行きますか。)

[答え]

I go to school at eight twenty.

(私は8時20分に学校に行きます。)

[疑問文]

What time did you get up this morning?

(あなたは今朝何時に起きましたか。)

[答え]

I got up at seven thirty-five.

(私は7時35分に起きました。)

○ 主語＋述語＋about＋時間.

意味：「～時ごろ…します。」

これは「時間がはっきりわからない時」に使う表現です。

例文：

[疑問文]

What time do you go to school?

(あなたは何時に学校に行きますか。)

[答え]

I go to school about eight.

(私は8時ごろ学校に行きます。)

[疑問文]

What time did you get up this morning?

(あなたは今朝何時に起きましたか。)

[答え]

I got up about seven.

(私は7時ごろ起きました。)

疑問詞を含む疑問文は難しいですが、日頃から使って、体で覚えるようにして下さい。

When の文

1. when とは？

when とは、「いつ」を表す単語です。他の疑問詞と同様、be 動詞や一般動詞と一緒に使われます。

2. when の英作文

1 When +be 動詞の疑問文

意味：「いつ～ですか。」

疑問詞を含む疑問文なので、下げ調子で読むことに注意して下さい。

では、when を使った英文の解説をします。be 動詞の肯定文から展開させて、最終的に when の疑問文にします。この流れの中で when の感覚をつかんで下さい。

例文：

Your birthday is January 1.

(あなたの誕生日は1月1日です。)

まずはこの文を疑問文にします。be 動詞の文なので、be 動詞を文頭に持っていきます。

⇒ 疑問文に

Is your birthday January 1?

(あなたの誕生日は1月1日ですか。)

そして次はこのような変化をさせます。

「あなたの誕生日は1月1日ですか。」

→ 「あなたの誕生日はいつですか。」

「1月1日→いつ」に変化しています。英語でも同様の変化をするので、「January 1 → when」にします。

⇒ January 1 → when に

Is your birthday when?

最後に、疑問詞を文頭に持って行って完成です。

⇒ **when** を文頭に

When is your birthday? (完成)

(あなたの誕生日はいつですか。)

最終的に「**When**＋疑問文」の形に持っていけば疑問文が完成します。わからない時は、日本語でじっくりと考えてみて下さい。

では、答え方です。

○ **It is**～.

日付を聞かれていますので、「**It is**～.」で答えれば **OK** です。日付の詳細は数詞をご覧ください。

例文：

[疑問文]

When is your birthday?

(あなたの誕生日はいつですか。)

[答え]

It is January 1.

(1月1日です。)

2 **When** ＋一般動詞の疑問文

意味：「いつ～ですか。」

疑問詞を含む疑問文なので、下げ調子で読むことに注意して下さい。

では、**when** を使った英文の解説をします。ここでも、一般動詞の疑問文を作ってから、**when** の疑問文に発展させて説明したいと思います。この流れの中で **when** の感覚をつかんで下さい。

例文：

They study English after school.

(彼らは放課後に英語の勉強をします。)

まずはこの文を疑問文にします。一般動詞の文なので、**Do** を文頭に持っていきます。

⇒ 疑問文に

Do they study English after school?

(彼らは放課後に英語の勉強をしますか。)

そして次はこのような変化をさせます。

「彼らは放課後に英語の勉強をしますか。」

→ 「彼らはいつ英語の勉強をしますか。」

「放課後に→いつ」に変化しています。英語でも同様の変化をするので、「**after school**
→ **when**」にします。

⇒ **after school** → **when** に

Do they study English when?

最後に、疑問詞を文頭に持って行って完成です。

⇒ **when** を文頭に

When do they study English? (完成)

(彼らはいつ英語の勉強をしますか。)

最終的に「**When**＋疑問文」の形に持っていけば疑問文が完成します。わからない時は、日本語でじっくりと考えてみて下さい。では、答え方です。

○ 主語＋動詞＋～.

疑問文から主語と述語を判断すれば OK です。

例文：

[疑問文]

When do they study English?

(彼らはいつ英語の勉強をしますか。)

[答え]

They study English after school.

(彼らは放課後に英語の勉強をします。)

では最後に、主語が 3 人称の場合と過去形の例文を紹介します。学習の参考にして下さい。

例文：

[3 人称の疑問文]

When does she go to the park?

(彼女はいつ公園に行きますか。)

[答え]

She goes to the park on Sunday.

(彼女は日曜日に公園に行きます。)

[過去形の疑問文]

When did he eat lunch?

(彼はいつ昼食を食べましたか。)

[答え]

He ate it two hours ago.

(彼は 2 時間前に昼食を食べました。)

Where の文

1. where とは？

where とは、「どこ」を表す単語です。他の疑問詞と同様、be 動詞や一般動詞と一緒に使われます。

2. where の英作文

1 Where +be 動詞の疑問文

意味：「はどこにいますか（ありますか）。」

疑問詞を含む疑問文なので、下げ調子で読むことに注意して下さい。

では、when を使った英文の解説をします。be 動詞の肯定文から展開させて、最終的に where の疑問文にします。この流れの中で where の感覚をつかんで下さい。

例文：

My brother is in his room.

（私の兄は彼の部屋にいます。）

まずはこの文を疑問文にします。be 動詞の文なので、be 動詞を文頭に持っていきます。

⇒ 疑問文に

Is my brother in his room?

（私の兄は彼の部屋にいますか。）

そして次はこのような変化をさせます。

「私の兄は彼の部屋にいますか。」

→ 「私の兄はどこにいますか。」

「彼の部屋に→どこに」に変化しています。英語でも同様の変化をするので、「in his room → where」にします。

⇒ in his room → where に

Is my brother where?

最後に、疑問詞を文頭に持って行って完成です。

⇒ where を文頭に

Where is my brother? (完成)

(私の兄はどこにいますか。)

最終的に「Where＋疑問文」の形に持っていけば疑問文が完成します。わからない時は、日本語でじっくりと考えてみて下さい。

では、答え方です。

○ 主語＋述語＋場所.

場所を聞かれていますので、「誰がどこにいるのか」を答えれば OK です。

例文：

[疑問文]

Where is my brother?

(私の兄はどこにいますか。)

[答え]

He is in his room.

(彼は彼の部屋にいます。)

2 Where ＋一般動詞の疑問文

意味：「どこで～しますか。」

疑問詞を含む疑問文なので、下げ調子で読むことに注意して下さい。

では、where を使った英文の解説をします。ここでも、一般動詞の疑問文を作ってから、where の疑問文に発展させて説明したいと思います。この流れの中で where の感覚をつかんで下さい。

例文：

You live in Tokyo.

(あなたは東京に住んでいます。)

まずはこの文を疑問文にします。一般動詞の文なので、Do を文頭に持っていきます。

⇒ 疑問文に

Do you live in Tokyo?

(あなたは東京に住んでいますか。)

そして次はこのような変化をさせます。

「あなたは東京に住んでいますか。」

→ 「あなたはどこに住んでいますか。」

「東京に→どこに」に変化しています。英語でも同様の変化をするので、「in Tokyo → where」にします。

⇒ in Tokyo → where に

Do you live where?

最後に、疑問詞を文頭に持って行って完成です。

⇒ where を文頭に

Where do you live? (完成)

(あなたはどこに住んでいますか。)

最終的に「Where＋疑問文」の形に持っていけば疑問文が完成します。わからない時は、日本語でじっくりと考えてみて下さい。では、答え方です。

○ 主語＋動詞＋～.

疑問文から主語と述語を判断すれば OK です。

例文：

[疑問文]

Where do you live?

(あなたはどこに住んでいますか。)

[答え]

I live in Tokyo.

(私は東京に住んでいます。)

では最後に、主語が３人称の場合と過去形の例文を紹介します。学習の参考にして下さい。

例文：

[３人称の疑問文]

Where does she eat lunch?

(彼女はどこで昼食を食べますか。)

[答え]

She eats it in her office.

(彼女は事務所で昼食を食べます。)

[過去形の疑問文]

Where did he go?

(彼はどこに行きましたか。)

[答え]

He went to the bookstore.

(彼は本屋に行きました。)

Which の文

1. which とは？

which とは、「どちらの、どの」を表す単語です。be 動詞や一般動詞を理解していないと英作文は難しく、試験等でもよく出題されます。

2. which の英作文

1 Which +be 動詞の疑問文

意味：「どちらが～ですか。」

疑問詞を含む疑問文なので、下げ調子で読むことに注意して下さい。

では、which を使った英文の解説をします。be 動詞の肯定文から展開させて、最終的に which の疑問文にします。この流れの中で which の感覚をつかんで下さい。

例文：

This is your pen.

(これがあなたのペンです。)

まずはこの文を疑問文にします。be 動詞の文なので、be 動詞を文頭に持っていきます。

⇒ 疑問文に

Is this your pen?

(これがあなたのペンですか。)

そして次はこのような変化をさせます。

「これがあなたのペンですか。」

→ 「どれがあなたのペンですか。」

「これが→どれが」に変化しています。英語でも同様の変化をするので、「this → which」にします。

⇒ this → which に

Is which your pen?

最後に、疑問詞を文頭に持って行って完成です。

⇒ which を文頭に

Which is your pen? (完成)

(どれがあなたのペンですか。)

最終的に「Which＋疑問文」の形に持っていけば疑問文が完成します。わからない時は、日本語でじっくりと考えてみて下さい。

では、答え方です。答え方は2種類あります。

○ 主語＋動詞＋所有格＋名詞.

疑問文から主語と述語を判断すれば OK です。「(主語) は (所有格) の (名詞) です。」という文にします。

例文：

[疑問文]

Which is your pen?

(どれがあなたのペンですか。)

[答え]

This is my pen.

(これが私のペンです。)

[疑問文]

Which is his desk?

(どちらが彼の机ですか。)

[答え]

That is his desk.

(あれが彼の机です。)

○ 主語＋動詞＋再帰代名詞.

再帰代名詞を使う答え方です。疑主語と述語は疑問文から判断して下さい。定期試験等では、カッコの穴埋め問題でよく出題されます。

例文：

[疑問文]

Which is your pen?

(どれがあなたのペンですか。)

[答え]

This is mine.

(これが私のものです。)

[疑問文]

Which is his desk?

(どちらが彼の机ですか。)

[答え]

That is his.

(あれが彼のものです。)

2 Which ＋一般動詞の疑問文

意味：「どちらを～しますか。」

疑問詞を含む疑問文なので、下げ調子で読むことに注意して下さい。

では、**which** を使った英文の解説をします。ここでも、一般動詞の疑問文を作ってから、**which** の疑問文に発展させて説明したいと思います。この流れの中で **which** の感覚をつかんで下さい。

例文：

You use this.

(あなたはこれを使います。)

まずはこの文を疑問文にします。一般動詞の文なので、**Do** を文頭に持っていきます。

⇒ 疑問文に

Do you use this?

(あなたはこれを使いますか。)

そして次はこのような変化をさせます。

「あなたはこれを使いますか。」

→ 「あなたはどれを使いますか。」

「これを→どれを」に変化しています。英語でも同様の変化をするので、「this → which」にします。

⇒ this → which に

Do you use which?

最後に、疑問詞を文頭に持って行って完成です。

⇒ which を文頭に

Which do you use? (完成)

(あなたはどれを使いますか。)

最終的に「Which＋疑問文」の形に持っていけば疑問文が完成します。わからない時は、日本語でじっくりと考えてみて下さい。では、答え方です。

○ 主語＋動詞＋～.

疑問文から主語と述語を判断すれば OK です。

例文：

[疑問文]

Which do you use?

(あなたはどれを使いますか。)

[答え]

I use this.

(私はこれを使います。)

では最後に、主語が 3 人称の場合と過去形の例文を紹介します。学習の参考にして下さい。

例文：

[3 人称の疑問文]

Which does she eat?

(彼女はどれを食べますか。)

[答え]

She eats this.

(彼女はこれを食べます。)

[過去形の疑問文]

Which did they read?

(彼らはどれを読みましたか。)

[答え]

They read that.

(彼らはあれを読みました。)

3 Which + 名詞 + 疑問文

意味：「どの～が…ですか。」

疑問詞を含む疑問文なので、下げ調子で読むことに注意して下さい。

では、**which** を使った英文の解説をします。これは **which** の直後に名詞が来るパターンです。英作文の方法は 1 や 2 とほとんど同じなので、それほど難しく考える必要はありません。

例文：

That cap is mine.

(あの帽子が私のものです。)

まずはこの文を疑問文にします。be 動詞の文なので、be を文頭に持っていきます。

⇒ 疑問文に

Is that cap mine?

(あの帽子が私のものですか。)

そして次はこのような変化をさせます。

「あの帽子が私のものですか。」

→ 「どの帽子が私のものですか。」

「あの→どの」に変化しています。英語でも同様の変化をするので、「that → which」にします。

⇒ that → which に

Is which cap mine?

最後に、疑問詞を文頭に持ってきますが、この場合、主語は「どの帽子が」です。すなわち「which cap」が主語になるので、which と cap は別々にしてはいけません。従って、which だけでなく cap も一緒に文頭に持っていきます。

⇒ which cap を文頭に

Which cap is mine? (完成)

(どの帽子が私のものですか。)

最終的に「Which＋名詞＋疑問文」の形に持っていけば疑問文が完成します。わからない時は、日本語でじっくりと考えてみて下さい。

では、答え方です。

- 主語＋動詞＋所有格＋名詞.
- 主語＋動詞＋所有代名詞.
- 主語＋動詞＋～.

これまでに紹介した答え方を使えば答えることができます。疑問文が **be** 動詞なのか、それとも一般動詞なのかで判断すればわかりやすいと思います。

例文：

[疑問文]

Which cap is mine?

(どの帽子が私のものですか。)

[答え]

This is your cap.

(これがあなたの帽子です。)

では最後に一般動詞を使った例文を紹介します。学習の参考にして下さい。

例文：

[疑問文]

Which car do you want?

(あなたはどの車が欲しいですか。)

[答え]

I want that one.

(私はあの車が欲しいです。)

※この **one** は 1 という意味ではありません。代名詞の **one** です。詳しくは下記 4 をご覧下さい。

4 Which ～, A or B ?

意味：「どちらが～ですか、A ですか B ですか。」

この形の疑問文は基本的に、「A or B」の部分の A は上げ調子、B は下げ調子で読みます。この発音が試験に出題されることが多々ありますので、注意して下さい。

では、**which** を使った英文の解説をします。このパターンは「英作文」というよりも「暗記」の色が強いと思います。ですから英作文をするのではなく、例文を覚えてその場に応じた単語をあてはめることで対応できるはずです。

次の例文を暗記して下さい。

例文：

Which is your book, this one or that one?

(どちらがあなたの本ですか、これですかあれですか。)

この例文の「A (this one)」と「B (that one)」の部分を入れ換えることで、違った文に対応できるようになります。

また、この例文の one は1 という意味ではありません。代名詞の one です。1 度出てきた名詞の変わりに one を使っています。この場合は「book = one」です。ただし、数えられない名詞（不可算名詞）には使えないので注意して下さい。

では、答え方です。

○ 主語＋動詞＋～.

疑問文から主語と述語を判断すれば OK です。

例文：

[疑問文]

Which is your book, this one or that one?

(どちらがあなたの本ですか、これですかあれですか。)

[答え]

This one is mine.

(これが私のものです。)

That one is mine.

(あれが私のものです。)

では最後に一般動詞を使った例文を紹介します。学習の参考にして下さい。

例文：

[疑問文]

Which pen does he use, this one or that one?

(彼はどちらのペンを使いますか、これですかあれですか。)

[答え]

He uses this one.

(彼はこれを使います。)

He uses that one.

(彼はあれを使います。)

Who の文

1. who とは？

when とは、「だれ」を表す単語です。他の疑問詞と同様、be 動詞や一般動詞と一緒に使われます。

2. who の英作文

1 Who +be 動詞+名詞（代名詞）？

意味：「～はだれですか。」

疑問詞を含む疑問文なので、下げ調子で読むことに注意して下さい。

では、when を使った英文の解説をします。作り方は単純で、「Who +be 動詞+名詞（代名詞）？」の形にすれば OK です。

例文：

Who is he?

（彼はだれですか。）

Who is she?

（彼女はだれですか。）

Who is that boy?

（あの少年はだれですか。）

Who is this woman?

（こちらの女性はだれですか。）

Who are they?

（彼らはだれですか。）

では、答え方です。

○ 代名詞+be 動詞+～.

「だれか」を聞かれていますので、「だれなのか」を答えれば OK です。

例文：

[疑問文]

Who is he?

(彼はだれですか。)

[答え]

He is Mike.

(彼はマイクです。)

[疑問文]

Who is she?

(彼女はだれですか。)

[答え]

She is my sister.

(彼女は私の姉です。)

[疑問文]

Who is that boy?

(あの少年はだれですか。)

[答え]

He is my son.

(彼は私の息子です。)

[疑問文]

Who is this woman?

(こちらの女性はだれですか。)

[答え]

She is my teacher.

(彼女は私の先生です。)

[疑問文]

Who are they?

(彼らはだれですか。)

[答え]

They are member of a tennis team.

(彼らはテニスチームのメンバーです。)

2 Who +be 動詞の疑問文

意味：「～しているのはだれですか。」

疑問詞を含む疑問文なので、下げ調子で読むことに注意して下さい。

では、who を使った英文の解説をします。この形で使われるのは、ほとんどの場合進行形の文です。進行形の文から展開させて、最終的に who の疑問文にします。この流れの中で who の感覚をつかんで下さい。

例文：

Mike is playing baseball.

(マイクが野球をしています。)

まずはこの文を疑問文にします。be 動詞の文なので、be 動詞を文頭に持っていきます。

⇒ 疑問文に

Is Mike playing baseball?

(マイクが野球をしていますか。)

そして次はこのような変化をさせます。

「マイクが野球をしていますか。」

→ 「だれが野球をしていますか。」

「マイクが→だれが」に変化しています。英語でも同様の変化をするので、「Mike → who」にします。

⇒ Mike → who に

Is who playing baseball?

最後に、疑問詞を文頭に持って行って完成です。

⇒ who を文頭に

Who is playing baseball? (完成)

(だれが野球をしていますか。)

最終的に「Who＋疑問文」の形に持っていけば疑問文が完成します。わからない時は、日本語でじっくりと考えてみて下さい。では、答え方です。

○ 主語＋be 動詞（＋～）。

答え方は、主語と be 動詞だけで構いません。

例文：

[疑問文]

Who is playing baseball?

(だれが野球をしていますか。)

[答え]

Mike is.

(マイクです。)

これだけで OK です。「Mike is playing baseball.」としても間違いではありませんが、「野球をしている」のはわかりきっていますし、この場合「だれなのか」が重要なので、「playing baseball」は特に記す必要はありません。

3 Who ＋一般動詞＋～？

意味：「だれが～しますか。」

疑問詞を含む疑問文なので、下げ調子で読むことに注意して下さい。

では、who を使った英文の解説をします。ここでも、一般動詞の疑問文を作ってから、who の疑問文に発展させて説明したいと思います。この流れの中で who の感覚をつかんで下さい。

例文：

You buy a new bike.

(あなたが新しい自転車を買います。)

まずはこの文を疑問文にします。一般動詞の文なので、**Do** を文頭に持っていきます。

⇒ 疑問文に

Do you buy a new bike?

(あなたが新しい自転車を買いますか。)

そして次はこのような変化をさせます。

「あなたが新しい自転車を買いますか。」

→ 「だれが新しい自転車を買いますか。」

「あなたが→だれが」に変化しています。英語でも同様の変化をするので、「**you** → **who**」にします。

⇒ **you** → **who** に

Do who buy a new bike?

そして疑問詞を文頭に持っていきます。

⇒ **who** を文頭に

Who do buy a new bike?

他の疑問詞はここで完成していましたが、この疑問文はまだ終わりません。実は、「**Who** + 一般動詞 + ～？」の形は **do** がありません。

⇒ **do** を省く

Who buy a new bike?

さらに、「だれが新しい自転車を買いますか。」の文をみればわかる通り、この文の主語は「だれが」です。すなわち「**who**」が主語になります。「**who**」が主語のときは3

人称単数扱いになりますので、動詞を変化させなければなりません。

⇒ 3人称単数の s をつける

Who buys a new bike? (完成)

(だれが新しい自転車を買いますか。)

これで完成です。他の疑問詞の疑問文と多少異なる点がありますが、しっかりと暗記して下さい。

では、答え方です。

○ 主語 + do (does , did).

答え方は、「主語 + do (does , did).」で構いません。この do (does , did) は、同じ動詞の繰り返しを避けるための代動詞です。同じ名詞の繰り返しを避けるために使う代名詞の one と同じ感覚です。

例文：

[疑問文]

Who buys a new bike?

(だれが新しい自転車を買いますか。)

[答え]

You do.

(あなたが新しい自転車を買います。)

では最後に、答えが3人称の場合と過去形の例文を紹介します。学習の参考にして下さい。

例文：

[疑問文]

Who goes to the park?

(誰が公園に行きますか。)

[3人称の答え]

She does.

(彼女が行きます。)

[疑問文]

Who won the game?

(誰が試合に勝ちましたか。)

[過去形の答え]

Mr. Nakamura did.

(ナカムラさんが勝ちました。)

Why の文

1. why とは？

why とは、「なぜ」を表す単語です。他の疑問詞と同様、be 動詞や一般動詞と一緒に使われます。

2. why の英作文

1 Why +be 動詞の疑問文

意味：「なぜ～ですか。」

疑問詞を含む疑問文なので、下げ調子で読むことに注意して下さい。

では、why を使った英文の解説をします。be 動詞の肯定文から展開させて、最終的に why の疑問文にします。この流れの中で why の感覚をつかんで下さい。

例文：

You are crying.

(あなたは泣いています。)

まずはこの文を疑問文にします。be 動詞の文なので、be 動詞を文頭に持っていきます。

⇒ 疑問文に

Are you crying?

(あなたは泣いているのですか。)

そして次はこのような変化をさせます。

「あなたは泣いているのですか。」

→ 「あなたはなぜ泣いているのですか。」

「なぜ」という言葉が追加されました。英語でも同様の変化をするので、英文に「why」を追加します。疑問詞は文頭に置くので、

⇒ why を文頭に追加

Why are you crying? (完成)

(あなたはなぜ泣いているのですか。)

最終的に「Why＋疑問文」の形に持っていけば疑問文が完成します。わからない時は、日本語でじっくりと考えてみて下さい。では、答え方です。

○ Because +主語＋動詞 ～.

意味： 「なぜなら～だからです。」

理由を聞かれていますので、「because (なぜなら)」を使って答えれば OK です。接続詞 1 でも解説している通り、because は文頭と文中のどちらでも使用できますが、why の答えとして使う場合は文頭で使うのが一般的です。

例文：

[疑問文]

Why are you crying?

(あなたはなぜ泣いているのですか。)

[答え]

Because I have lost my bike.

(なぜなら自転車をなくしたからです。)

2 Why +一般動詞の疑問文

意味：「なぜ～か。」

疑問詞を含む疑問文なので、下げ調子で読むことに注意して下さい。

では、why を使った英文の解説をします。ここでも、一般動詞の疑問文を作ってから、why の疑問文に発展させて説明したいと思います。この流れの中で why の感覚をつかんで下さい。

例文：

They criticize me.

(彼ら私を非難します。)

まずはこの文を疑問文にします。一般動詞の文なので、Do を文頭に持っていきます。

⇒ 疑問文に

Do they criticize me?

(彼らは私を非難しますか。)

そして次はこのような変化をさせます。

「彼らは私を非難しますか。」

→ 「なぜ彼らは私を非難しますか。」

「なぜ」という言葉が追加されました。英語でも同様の変化をするので、英文に「**why**」を追加します。疑問詞は文頭に置くので、

⇒ **why** を文頭に追加

Why do they criticize me? (完成)

(なぜ彼らは私を非難しますか。)

最終的に「**Why**＋疑問文」の形に持っていけば疑問文が完成します。わからない時は、日本語でじっくりと考えてみて下さい。

では、答え方です。

○ **Because** ＋主語＋動詞 ～.

意味： 「なぜなら～だからです。」

理由を聞かれていますので、「**because** (なぜなら)」を使って答えれば **OK** です。接続詞 1 でも解説している通り、**because** は文頭と文中のどちらでも使用できますが、**why** の答えとして使う場合は文頭で使うのが一般的です。

例文：

[疑問文]

Why do they criticize me?

(なぜ彼らは私を非難しますか。)

[答え]

Because your opinion is inconsistent with our policy.

(なぜならあなたの意見が我々の方針に矛盾するからです。)

3 Why don't you +動詞+～?

意味：「～してみてもうですか。」

これは提案を表す文ですが、すこし命令のニュアンスを含みますので、使用するときには注意して下さい。

試験では必出構文です。直訳して「なぜ～しないのですか。」と訳さないようにして下さい。

例文：

Why don't you come to my house?

(私の家に来ない?)

Why don't you be a good boy?

(いい子にしてくれない?)

前置詞

1. 前置詞とは？

前置詞とは、「～に、～で、～へ」を表す語のことです。with, of, in, on, at などがあります。

2. 前置詞の用法

1 場所を表す前置詞

○ at

用途： せまい場所を表す場合

例文：

I saw him at the station.

(私は駅で彼を見ました。)

My father stayed at home.

(私の父は家に居ました。)

○ in

用途： 広い場所を表す場合

例文：

He lives in Japan.

(彼は日本に住んでいます。)

She lives at Sapporo in Hokkaido.

(彼女は北海道の札幌に住んでいます。)

※ at と in の両方を使用して場所を表す時は先に at を使います。

○ その他

例文：

There is a ball in the box.

(箱の中にボールがあります。)

He is standing by the window.

(彼は窓の側に立っています。)

There is a cat under the table.

(テーブルの下に猫がいます。)

There is a picture on the wall.

(壁に絵があります。)

2 方向を表す前置詞

○ to

用途： 方向を表す場合

例文：

We went to America last year.

(私たちは去年アメリカに行きました。)

I gave a bike to my brother.

(私は弟に自転車をあげました。)

○ for

用途： 目的地を表す場合

例文：

My father left Tokyo for Osaka.

(私の父は東京を出発し大阪へ向かった。)

3 時間を表す前置詞

○ at

用途： 時を表す場合

例文：

I got up at eight.

(私は8時に起きました。)

The program starts at noon.

(その番組は正午に始まります。)

○ on

用途： 曜日・日付を表す場合

例文：

We will have a test on Tuesday.

(火曜日にテストがあります。)

He came from Canada on February 7.

(彼は2月7日にカナダから来ました。)

○ in

用途： 月・年・季節を表す場合

例文：

A meeting will be in June.

(会議は6月になるでしょう。)

I was born in 2006.

(私は2006年に生まれました。)

We went to Okinawa in summer.

(私たちは夏に沖縄へ行きました。)

※this, last, next がつく場合、季節に in は必要ありません。

○ before

意味： 「～の前に」

例文：

I always go for a walk before breakfast.

(私はいつも朝食の前に散歩に行きます。)

○ after

意味： 「～の後に」

例文：

I went to the library after school.

(私は放課後に図書館に行きました。)

○ for

意味： 「～間」

例文：

I am reading a book for three hours.

(私は3時間本を読んでいます。)

○ from

意味： 「～から」

例文：

A test will be start from Thursday.

(木曜日からテストが始まります。)

I came from Japan.

(私は日本から来ました。)

4 その他の前置詞

○ of

意味： 「～の」

例文：

I lost a button of my coat.

(私はコートボタンをなくした。)

※日本語の「A の B」は、英語では「B of A」の語順になります。

○ by

用途： 手段を表す場合

例文：

I went to the stadium by train.

(私は電車で競技場に行きました。)

○ in

用途： 言語を表す場合

例文：

He wrote a letter in English.

(彼は英語で手紙を書きました。)

○ with

意味： 「～と一緒に」

例文：

I went to the park with my dog.

(私は犬と一緒に公園へ行きました。)

○ for

用途： 理由・原因を表す場合

例文：

I was absent from school for a cold yesterday.

(私は昨日風邪のために学校を休みました。)

○ about

意味： 「～について」

例文：

We talked about Japanese culture.

(私たちは日本の文化について話しました。)

以上、かなりの数がありますが、やはり覚えなければなりません。また、前置詞は熟語と一緒に出題されることが多いので、熟語と共に覚えるようにして下さい。